銀魂～銀さんと一緒！天人少年の肥前日記～

紘 川時

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
銀魂～銀さんと一緒！天人少年の肥前日記～

【Ｎコード】
Ｎ６９３３Ｒ

【作者名】
紘　川時

【あらすじ】
山木康広の前に突如現れた銀髪侍・坂田銀時（通称：銀さん）。彼との出合ったのがきっかけで新八、神楽、真撰組などのいろんなキャラにより、ヤスはドタバタや色んなコメディに巻き込まれる話だったですが、諸事情が諸事情でやむを得ず途中から絶望先生のような展開になってしまい、ヤス君の出番は当初と比べて減少しています。

第一訓

江戸時代末期、『天人(あまんと)』と呼ばれる異性人たちが襲来した。間もなく地球人と天人との十数年にも及ぶ攘夷戦争が勃発。
数多くの侍、攘夷志士が天人との戦いに参加。しかし、天人の絶大な力を見て弱腰になった幕府は、天人の侵略をあっさり受け入れ、開国してしまう。そして、幕府は天人による傀儡政権となり、天人たちが我が物顔で江戸の街を闊歩するようになった。
一方、国や主君のために天人と戦った攘夷志士たちは弾圧の対象になり、他の侍たちもその多くが廃刀令により刀を失い、戦う気力を失っていた。

それから２０年後、天人たちは江戸のみならず日本全国をも支配するようになり、その中でも九州に肥前があり、そこに在住していて、天人ながら、新八と同じく古風な侍気質を持つ山木康広（地球での通り名）は前述の通り天人で運動神経や戦闘力を持ち合わせているものの廃刀令やその他の事情で力は秘めており、公にはしておらず、駅前のバーという意に沿わないアルバイトで生計を立てていた。

「コラァ、お前ここに来てもう1年になるのに、ロクにレジの打ち方もしらねぇのかァ！」

と、康広のノロマっぷりに頭に来たのか、暴力口調になる先輩。

「いえ、今日は調子が悪くて」

と、康広が言うと、

「じゃかましいィィィ」

先輩は康広を殴り、数メートル先までふっ飛ばす。

「もういい。山木、レジは俺がやる」

と、言われ注文されたチョコレートパフェを指定のテーブルまで持って行こうとしていた時、足を引っ掛けられ、派手に転び、パフェも台無しだ。

「おい、ぼんやり歩いているから。ズボンが汚れちまったぜ。これじゃシミになってしまうぞ」

するとさっきの先輩がやってくる。

「すいませんすいません」

「お前が謝るんだよ」

康広の髪を引っ張って土下座させる。

明らかに足を引っ掛けてきた男性が悪いのにもかかわらず、理不尽な事に完全に康広が悪い事になっている。

「すいませんでした…」

「声が小いせェンだよ」

「ハッハッハ、こいつからかうの面白いなァ」

まるでこの少年は生きたオモチャだ、するとそこへ。

「おい」

と、1人の白髪の侍。

「どうかしましたか？」

「どうかしましたかじゃねぇんだよ。せっかくのパフェがめちゃくちゃじゃねぇか。俺はなぁ、糖尿予備軍で糖分は週に1回だけって医者に制限されてるのによ」

すると腰にかけていた木刀を振り回しながら男性をボコボコにして、出入り口のドアから出ようとする間際にこう言い放った。

「店長に言っとけ、パフェはおごりだってな」

この男、ただの侍にしてはちょっぴり破天荒だがただのチンピラにしてはまっすぐな目をしていた。

＊

先輩「おいコラ山木、さっきお前が殴ったのは、幕府のお方なんだぞ。お前のせいで店にこんな高額値段が書いてある損害賠償の請求書を突きつけられたんだ」

康広「いや、違います違います。何で僕なんですか！！さっき木刀持って暴れてたのはさっきの天然パーマ…」

腰に視線を落とす、見覚えのある木刀だ。

＊

康広「コラァー待てェ！！てめぇのせいでバークビになったじゃねぇか」

と、原チャリに乗っているさっきの白髪の天然パーマを必死で追いかける。

「あんた誰？さっきからしつこいよ。クビ？それぐらいで落ち込んでいると、この先生きていけないよ。世の中にはなァ、ダンボールハウスを最高のマイホームって言ったり、コンビニのゴミ箱から拾ってきた弁当をご馳走って言ったりして、ポジティブに生きるホームレスも居るんだから」

と、天然パーマこと、坂田銀時。
てゆーか彼、江戸に住んでいたのに、どうして肥前に居る訳。

銀さんの話によると、前の家で家賃滞納し過ぎたせいで下に住むババァ（お登勢）の堪忍袋の緒が切れたのか、追い出されてしまった、それで新八と神楽と3人で途方に暮れていた所、ホームレスの爺さんがある面白いカセットテープを聞いていた。テープに入ってた曲を盗み聴きして推測した結果、『くじゃく音頭』という肥前のくじゃく園やくじゃく壮など、『くじゃく』を冠している施設、大崎半島がある某村を舞台にした曲だった。
そして肥前に引っ越し、例の村に『新・万事屋銀ちゃん』を設立。
万事屋一行もお登勢とたまに連絡したりするなど仲は悪くなった訳ではない様子。

＊

康広は銀さんが運転するスクーターに乗せてもらい、例の万事屋に

到着した。

「着いたぞ」

「ここが…ほんと和風だな」

TO　BE　CONTINUED

第一訓（後書き）

４月からアニメ・銀魂復活です。
漫画派にしてみれば、どうでもいいって思うけど、楽しみにしてる人にとっては４月４日夕方６時が待ちきれない頃合でしょう。

第二訓

万事屋という和風な造りの店に連れてこられたヤス。

「新八、神楽、新入りを紹介するぞ。さっき駅前のバーをクビになって仕方なくこっちが引き取る事になった、大串康明くんだ」

っておい、大串ってどこから出てきたんだ、しかも康明じゃなくて康広だっつーの！『康』しか合ってねぇじゃねぇか。

「至って普通の男の子ですね」

前話にも名前が出てきたが、地味な童貞メガネで通称『ダメガネ』（神楽命名）であり、成分を殆どっていうよりほぼ全てメガネに吸収されたなかなかの可哀想な印象の持ち主の志村新八。

「地味でオタクっぽい所が新八と被ってるアル」

と、チャイナ服を着用し、頭の左右に団子を付けた美少女、神楽。

新八「神楽ちゃん、今の少し傷ついたんだけど」

神楽「君の名前康明っていうアルか？」

新八「（無視かよ…）」

康広「…いや康広です！苗字も『大串』じゃなくて『山木』ですから。とにかくこれからよろしくお願いします」

と、銀さんが隣に付き添いの元、銀さんがいつも座っていると思われるオーナー机の横に立つ康広。

「すいませんねぇ、この人（銀時）、人の名前覚えるのあまり得意ではないんです、気にしないでやってください」

と、新八。

「あ、そうですか」

ん？何か軋む音がする。

バキッドーン

何が起こったのかと思いきや、忍者の格好をした紫色のロングヘアーにメガネかけた女性が壊れた天井から落ちてきた。

「お前、また…」

「そうよ、私はいつでも銀さんを監視しているの、そう朝昼晩、２４時間３６５日―」

「気持ち悪いんだよォ―」

ぐへっ

銀さんがブーメランのように振り回した木刀をさっちゃんに命中させる。

＊

「そう、バーをクビになって…」

と、植木をヤスだと思い込んでいる。

「あの、さっちゃんさん、そのメガネ度が悪いんじゃないですか？」

「町行く人や電柱や木などどんなモノでも銀さんに見えて満足してるからこれでいいの」

「…（ちょっと引くなぁ）」

＊

「山木康広か。クフフ、アイツ、俺たちの計画に利用できねぇかなァ高杉さん」

と、こちらもオリキャラ、江藤　裕哉（ゆうや）。

どうやらあの要注意人物リストに記載されているテロリストであり、鬼兵隊・紅桜の隊長格、高杉晋助の仲間で、紅桜のメンバーか？

「そんなもん興味ねぇな、俺はこの腐った世界をただ壊すだけさ」

「そうかいそうかい。それがあんたらしいよ。まぁどっちにしろ、あの山木を生かしておく訳には行かないがな」

ヤスに魔の手が降りかかろうとしてるなんて本人は勿論、銀さんたちも知る由はないのである。

ＴＯ　ＢＥ　ＣＯＮＴＩＮＥＤ

第三訓

「総悟〜・・何やってんだお前」

と、黒髪の二枚目。

「見ればわかるじゃないでさァ、筋トレしてたンですぜィ」

総悟と呼ばれた亜麻色の髪に蘇芳色の目の青少年は白い着物に、頭には火の点いた蝋燭を飾り、『土方』と書かれた藁人形に釘を刺していた。

甘いマスクの爽やかな美少年だが、かなりの腹黒である。

総悟、正しくは沖田総悟、真選組一番隊隊長、副長の座を狙っており、現副長である土方の暗殺計画を企てる。

前述の藁人形の釘打ちはそのためだと思われる。真相は今の所不明。

「ウソつけェ、そんな状態で筋トレなんかしたら頭火達磨になるぞ」

と、前述の黒髪の二枚目こと、土方十四郎。

クールで熱い真選組の副長。『鬼の副長』と呼ばれる真選組のＮｏ．２。

＊

山崎　退（さがる）は、かっこいいユニフォームに身を包み、土手でバドミントンの練習をする。

「まだまだだね」

まるでジャンプで連載していた某テニス漫画のパロディである。

「あっ、銀さん・・あれ、3人だったはずだけど1人多いな」

「ん？勤務中にバドミントンとは、暢気なモンだァ、副長さんにチクっちゃおうかな」

「それだけはやめて、って新八と神楽ちゃんともう1人は誰？」

「コイツは新しい居候だ」

康広「ミントン、僕が相手になってやってもいいですよ」

退「マジ、もう1つラケットが、あそこのケースに入ってるから取ってきて」

＊

結果は康広が圧勝、退はボロ負け。

「ハァハァ、君強いね」

「それほどでもないよ」

そこに新八と神楽が駆け寄る。

新八「ヤスく～ん、昔ミントン習ってたんですか？」

「まァ、少しの間だけな」

神楽「短期間の割りに上手だなんて大したモンアル、にしてもあのミントン野郎、ただでさえミントンしか取り柄がないのに、1回も勝てないなんて出直して来いとしか言いようがないヨロシ」

辛口発言が相変わらずだな。

康広は周りを見渡すフリをして神楽の顔をもう1回チラ見して、顔を赤くする。

「てか山崎さんは仕事は？（ヤバイ、神楽って子天使みたいに可愛い・・・って俺何考えてんだ、何で神楽ちゃんのことになると胸が高鳴るんだ、自分と同じく居候という立場にあるあの小娘に限ってそれは無いはずだぞ！）」

正に康神のスタートであった。

康広「てか、ナレーションしてるの誰だ？九志郎か？」

ゲゲッ、なぜバレた。

・・まぁいい、

銀時「康広、もういいか？けぇるぞォ」

ヤス「アァ、待ってくれ」

新八「ちょっと銀さん」

山崎「あの強さ半端ないよ、もしかして彼天人？」

＊

「…（何か嫌な予感がする）」

下を見ながら考え込むヤス。

神楽「どうかしたアルかヤス」

ヤス「いや何でもない」

＊

白いアヒルのようなペンギンのオバケの着ぐるみが夜空を見上げている。

「どうした？空を筋斗雲が飛んでるのか？」

と、黒髪のロングヘアの美形男。

”ただ星が綺麗だったから”と書いた立て札を掲示するアヒルペンギンの人形こと、エリザベス。

「だったら行くぞ」

ロングヘアこと、『狂乱の貴公子』『攘夷志士の暁』『逃げの小太郎』の異名を持つ攘夷志士・桂小太郎。

第四訓（前書き）

山木康広

地味で目立たないタイプだが、侍気質を持ったまっすぐな少年。
実は人間を上回る戦闘能力を持った天人。
山木康広は地球での通り名で、本名不明。
家族構成などは今後判明する予定。
３・７生　１７８ｃｍ　５８ｋｇ

第四訓

「万事屋に新しい子が入ったんだって？じゃあ銀さんたちも呼んでウチで歓迎パーティーしなきゃね」

と、和服姿の女性、新八の姉・志村妙。

てか何でオィがナレーション、て事は声だけの登場？はァ、どうせ出すとやったら姿も登場させろさ、マジキモか（今回ナレーションするのは、二瀬翼くん、今作では翼と、前話で紹介した九志郎、すなわち本坂九志郎と交代交代で担当する事になりました）。

「そうですね、誘ってみます（チクショウ、姉上の事だから、卵焼きだと言って、得体の知れないとんでもない黒い物体を出してくるじゃぇか！？）」

と、不安に駆られる新八。

＊

「初めまして、康広くん、君のために腕によりをかけて作ったから」

と、並ぶご馳走に紛れ、正体不明の物質と化した卵焼きがあるテーブル方向を手で指しながら、ニコニコしながら言う。

「美味そう・・・（これが銀さんや新八くんが言ってた、殺人卵焼き、死んでも食べたくない、他のオカズを食べまくって、いかにもその卵焼きを食べるフリをするしかない）」

と、下がり口調ながら言った。

＊

ヤス「ふゥ、腹いっぱい」

お妙「康広くん」

ヤス「はい、何でしょう？」

お妙「卵焼きには全然手ェつけてないみたいだけど」

ヤス「いやこれは色々事情があって後からゆっくり味わおうと思って・・・（これどうみても卵焼きじゃねェよ、食ったら死ぬぞ）」

神楽「そういえばヤス、姉御の卵焼きには全く手ェ出してないアルな」

銀時「残したら殺されるぞ」

「ちょっ…姉上…」

ヒャッ…怖っ！妙がかなりキレてるご様子。

「この特製の卵焼き、私（アタシ）が食べさせてあげる」

ヤスは一気に冷や汗状態に陥り、あの3人もバクバクご馳走を食べていたのが、ビックリしたような顔で一斉に妙の方を見る。

てか作者もパーティーとか考えがシンプル過ぎるなァ、このままじ

ゃ銀魂ファンフィクションが銀魂色ば失ってくやっか。

妙「ブツブツ煩いわよナレーション」

あっ、ごめんなさい。

妙によって無理矢理激まずの卵焼きを食べさせられたヤスは、銀さんや神楽に抱えられながら万事屋に帰って行った。

＊

…どうやら本題はここからのようだ。

神楽は目を瞑るも、なかなか寝付けずに居た。

「眠れないアル」

身体をむくっと起こしてから、

「私最近不眠症アルか」

銀さんが寝てる所に行き、起こそうとするもまるでシカトするようにして、引き続き寝続ける。

仕方がないからヤスが寝てる布団の中に潜り込んだ。

ヤス「何やってんの！神楽ちゃん」

神楽「ここだと寝られると思って、私の布団、何か私を拒む何かがあるヨロシ」

こりゃ、ヤス、やり場のない大喜びだな。

「ハハハ（神楽ちゃんとベッタリなんて正に世紀末…神楽ちゃん、髪をほどいた方が可愛い）」

若干ニヤつき気味になっているヤス。

マジキモいっさコイツ（ヤス）、高いか低いか解らん声のくせに…死ねばよかっさ！

神楽がヤスの腕にしがみ付き、

「ヤス、何ニヤニヤしてるアルか？ナレーションがヤスに暴言吐いてたアル」

「気にするな、奴はキモいが口癖だから」

「どうせ嫉妬してるヨロシ」

「えっ？どういう…」

「やっぱいいアル」

第五訓

沖田と神楽が勝った方が負けた方をピコピコハンマーで殴る、但しヘルメットで防御されれば、殴られたほうが勝ちというルールのジャンケンをしていた。

土方「あの2人、かなりのコンビネーションだ」

銀時「コイツら、いつまでやってんだ。もう30分経つぞ」

ちょっと待て、まァいいや。銀さん、原作が03年12月の連載開始以来一貫してこんな喋り方した事ないような…って思う方は申し訳ありません（byナレーション（九志郎））。

＊

ハァハァ

さすがに長時間もぶっ続けにすれば、息があがるのも無理はない。

神楽「やるアルな」

総悟「チャイナ娘こそ」

神楽「じゃぁ次はあのゴリラと姉御ヨロシ」

＊

続いては、このゴリラのようなガタイの良い男、真選組の隊士たち

から多大の信望を集める局長・近藤勲ＶＳ妙。

「お妙さん、自分のプライドだけは売れないから喩え相手が女であっても容赦はないですよ」

ピコピコ対決スタート。

ジャンケンをし、近藤がチョキ、お妙がグーを出した。

近藤は咄嗟にヘルメットを被るも・・・妙は何か奇妙な経を唱え出す。

すると、お妙が途轍もない威力を纏ったピコピコハンマー攻撃を近藤の頭に与える。

ヘルメットは粉々、近藤は鼻血を思いっきり噴射しながらその場に倒れ込んでしまった。

「局長」「局長」

隊士たちがうつ伏せに気絶している近藤に駆け寄る。

これからも連中はわァわァとはしゃいでいた。

それを銀さんは焼酎を飲みながら、土方は煙草をふかしながら眺めていた。

＊

「ン…夢か」

酔いつぶれて自販機の前で寝ていた沖田が目を覚ます。

「あっ、お前もそんな所で」
神楽も近くのベンチで寝ていた。
「ふわぁー（欠伸）…お前そんな所で何してるアルか？」
「チャイナ娘こそ」
神楽「お前はただ酔い潰れてただけかもしれないけど私は万事屋に帰っても銀ちゃんもヤスも居なかったから仕方なくベンチで寝てただけネ」
総悟「見捨てられたンじゃねェか？」
神楽「そんな事ないアル」
＊
幕府直轄の警察庁長官で、サングラスかけた者を殺し屋とみなしてしまう過激なオッサン、松平片栗虎は、運転手からハイヤーを奪い取り、猛スピードで国道を走っていた。
＊
総悟「何で付いて来るんだよ」
神楽「方向がたまたま同じだけアル」
すると片栗虎が飛ばすハイヤーが2人の前を通りかかり、
キャッ

ビックリした神楽が弾みで沖田に抱きつくようにして飛び掛かる。
沖田は神楽をただライバル視していただけのはずだが、なぜか顔が赤くなっている。
なるほど、喧嘩するほど仲がいいって訳か。
知らず知らずの内に神楽の事を可愛いと思うようになった総悟くんだった。

総悟「うるせェぞナレーション」

うわァこれは済まんやった。

神楽「どうしたアル？」

総悟「いや、何でもねェ」

「（何でだ…何であいつの事ばかり考えるんだ…ラブストーリーじゃあるまいししかもチャイナ娘に限って絶対有り得ない…妄想症候群かよ…）」

中の人が同一人物という事もあるのか、かつて同じ雑誌に載ってたフルーティーなタイトルを冠した某ラブコメ漫画の冴えない主人公を思いだすバイ。

＊

「（あのサド王子、何かいつもと様子が変なかったアル）」

通り慣れた道を歩きながら考える神楽。

＊

真選組駐屯地（って名称だったかな？）―

隊士たちが食堂で食卓を囲んでいる。

「総悟、メシ食わないのか？」

沖田はまるで裳抜けの殻のように固まっている。

「…あァ。今日は色々あって疲れてたんでつい…」

近藤「いつもの総悟じゃねェぞ。まさか恋の病か？」

土方「近藤さん、コイツに限ってンな事考えられませんよ」

近藤「総悟が惚れた女と言ったら…まさか万事屋ン所のチャイナとか…」

総悟「（ギクッ）違いやすよ。何言ってンスか。ごちそうさま」

おかずが乗った盆を持ち上げ、その場を後にした。

土方「…図星みたいだな」

近藤「図星って？」

土方「今アイツ、ギクッてしたろ。あれはあんたの”チャイナが好

きなんじゃ”の何気ない問いに対して、もし違ってれば全く反応しないはずなのに、とても恥ずかしいって言う素振りを見せてた。奴はあのチャイナが好きって言う決定的な証拠だよ」

近藤「なるほどな。総悟も結構可愛い一面があるじゃねェか。アイツいかにも女に興味ないって思ってたのに、仮にだ…もしアイツ、チャイナ娘との恋が実って、２人逢う度にイチャついてたら俺は心の底から妬むね」

土方「と言うと何だ…あァあれか」

近藤「おぅ、お妙さんにフラれっぱなしだからな」

近藤さん、あんたその腹いせに栗子ちゃんの彼氏を、片栗虎のとっつぁんによる娘の彼氏暗殺計画に沖田と共に悪ノリして、その彼氏を殺そうとした前科があるよな。

土方「ナレーションの言った通り、そういえばそんな事もあったな」

近藤「ナレーションって…何訳の解んないこと言ってるのか知らんけど、フラれっぱなしの俺の気持ちがお前に解るか」

土方「解らないね」

近藤「（ガーン）…」

鬼の副長・土方と、多くの信望を持つ局長・近藤といった親愛なる上司２人（前者に関して親愛なるのかは不明）のたわいもない会話を聞き流しながら沖田は寝室へと退去した。

＊

「（いったい、どうしちまったんだ…俺、チャイナ娘の事ばかり考えてしまうぞ…）」

布団に横になり、自分の今の心境をどう受け入れればいいか悩んでいるようだ。

第六訓

『それでは星占いで～す』

と、テレビの中の人気アナ・結野クリステル。
アナログ放送終了間近で画面の上下に右上に『アナログ』の文字がり、上下に黒いラインがあって、それだけならまだしも、黒ラインの中の告知があり、それも段々しつこくなっているというのに、万事屋のテレビは未だにブラウン管のままだ。
前述の啓発が目障りなほどに強調されてきている中でも頑張って見ているようだ。

『天秤座の方、漫画本を取り扱ってる店の空気吸わないと、怖くてきつい災難が降りかかりま～す』

オーナー机の椅子にふんぞり返っておめざめテレビを視聴していた銀さんの耳に”怖くてきつい降りかかりま～す”の超音波が数十回も聞こえた。
何故なら彼は１０月１０日が誕生日であり、天秤座だからだ。

急いで近くのブタヤへと走る銀さん。
神楽も同伴だ。

＊

ブタヤ出入り口前―

銀時「何だって！今日は水道工事のメンテナンスで臨時休業だと！？おいおい何でこんなときに限ってこうなの？俺、神から嫌がらせ

受けてるの？何か悪い事した？」

神楽「銀ちゃん、占いとか信じない方がいいアル。当たる確率なんてた〇じんが大阪で製作された自分の番組を気が変わって東京にも流すって言うのよりも低いアル」

銀時「喩え方上手いけど、アレだからね。”どうせ当たらないからいいや～”が命取りになるんだからんね」

＊

「銀さ～ん」

万事屋の玄関のドアを拳でトントンと叩く新八。

「おや新八くん」

留守番を頼まれてたヤスが出てきた。

新八「ヤスくん、銀さんは？」

ヤス「出かけてるよ」

新八「えぇっ！君と神楽ちゃんの２人だけ？」

ヤス「いやっ、なぜかあの人、神楽ちゃんは連れて行ってるのに俺をここに置いてだ」

似たようなっていうより同じ境遇の者同士が銀さんと神楽の話をしているなんてその２人は知らない。

＊

銀さんと神楽はだるそうに町を歩いていた。

「おい神楽、ケオってどこにあるんだ？」

「忘れたアル。このまま進んでればあるって思うネ」

「暢気だなお前。人の命が危機に晒されているのに」

小指で鼻をほじりながら言う銀さん。

「（！）、あったアル」

神楽が指を差す方向に銀髪侍が目指す確かに青の模様が入った黄色い建物があった。

「あった。ん？」

そこには移転を知らせる貼紙がかつて自動ドアだったと思われるドアにデカデカと貼ってあった。

銀時「ウソだァァァ！」

その横で神楽が眠そうな目になりながら鼻をほじくっている。

「銀ちゃん、災難に遭ってもその時はその時アル」

と、銀さんの背中に手を添えて言う。

「お前、さっき鼻ほじった手で触るな」

＊

洋風のレストランの庭に整備されたウッドデッキの上にある、プラスチック製の白い机と椅子に腰をかける銀さんと神楽。

銀時「結局、何しに来たんだ。ブタヤは水道工事、ケオは移転してどこ行ったかわかんねぇ。ヤスも新八も今頃怒ってるだろうな」

神楽「2人っきりで出かけるのも意外と楽しかったアル。てゆーか帰りに酢昆布買って帰らなくちゃ」

すると突風が吹き、2人共バランスを崩し、神楽が仰向けになってる上から銀さんは四つん這いになる。

…おい、どういう事やって、銀さんも神楽も笑いよっぞ。

まさか、このまま、ファースト…キス…

「銀時、そんな所で何やってんだ？」

現れたのは銀時の戦友、桂。

「ヅラ、お前こそ何だ？」

「ヅラじゃない桂だ」

【見ちゃったもんネ】と書いてあるホワイトボードを掲示するエリザベス。

「いや違う、ただの事故だからね。俺をロリコン呼ばわりしないでね。こんな大食い娘と性的な関係になりたいなんて考えた事すらないから、この事誰かに言ったら殺すから」

と、口八丁でその場をごまかそうとする銀時。

【お前んトコのチャイナ、顔を赤くしてもじもじしてるのはどう説明するんだ？】と書いてあるボードをエリザベスが掲げている。

確かによく見ると、ウッドデッキと道を繋ぐ階段に腰を下ろし、恥ずかしそうにしている。

「神楽ァ～、お前からもこのバカ共に何か言ってやれェ」

「銀ちゃんそんな趣味があったなんて知らなかったアル、私心の準備出来てなかったのに…」

銀時「神楽ちゃんまで何言ってんだァァ！！銀魂がただの時代劇コメディから少女に恋した侍の話に路線変更したって思われるだろ！それもこのファンフィクションだけならまだしも、原作とかに反映してみろ！児童ポルノの規制が厳しくなっているこのご時世だからジャンプが回収騒ぎになるぞ！」

桂「安心しろ銀時。俺も最近ミ〇キーホ〇ムズに嵌まった。自分以外にも同類が居た方が心強い」

銀時「知らねぇよ！てめェと一緒にするな」

ヤケになりツッコミキャラの印象が濃くなっている銀さん。

そう言って、最初来た道を神楽と2人で、新八とヤスが待ってる万

事屋へ帰っていった。

「銀ちゃーん、本屋もういいアルか？」

「あァ、信じるも信じないも個人次第だ」

第七訓

恋が始まるにはほんの少しの希望があれば十分です。（スタンダール（１７８３〜１８４２））

春―

４月、私の心は希望に満ち溢れていました。

と、花咲く桜の木の下を通学鞄片手に歩く牛乳瓶眼鏡をかけ、可愛らしいセーラー服を身に纏った中国からの留学生という設定の神楽ちゃん。

すると神楽ちゃん、とんでもないものを目撃する。

枝からロープを吊るし、先端の輪に首を通して、首吊り自殺している白衣に緩んだネクタイ、推定２０代銀髪頭の男性。

当初は死んでると思ったが、まだ生きてるようだ―

顔が一気に青ざめた神楽は咄嗟に、

「銀ちゃん！」

飛び掛かった拍子に銀髪頭の首に巻き付いていたロープが思いっきり締まってしまう。

「命を粗末にしてはいけないアル！」

窒息しそうになり、じたばたと、銀髪頭こと、坂田銀八は足をバタつかせる。

銀八「〇×△◇Å♀％∞！！」

そしてロープはぶちっと効果音を放ちながらちぎれ、銀八と神楽は地面に転がり込む。

「ゲホッ死んだらどうするんだコノヤロー」

何言ってんだコイツ、だったら首吊りなんかするなよ。

「おいナレーション、お前一言多いんだよ、神様になったつもりか！」

言い方キツイよ銀八っつぁん。

何か変な事を言ってしまったかのような気まずい空気に陥る銀八。

神楽「ん？」

銀八「あ・・・また死ねなかった・・・何で止めたりしたんだ？」

神楽「でも今『死んだらどーする』って言ってたネ・・・」

銀八はだるそうに顔をやや下に下げながら、

「俺なんていきていても何の価値もない人間なんだよ」

神楽「死ぬ気なかったアルよな」

銀八「死ぬ気満々だったぞ俺」

神楽「そうアル、こんな素晴らしい春の日に自ら命を絶とうなんて

人いないアル」

と、桜が舞い散る中、とおせんぼの姿勢になりながら言う。

「春、それは、始まりの季節。恋が生まれ、夢が生まれ、喜びが生まれるネ。何事も春から始まりアタシたちを未来へ誘ってくれるヨロシ、こんな日に自ら命を絶つなんて桃色定春が許さないアル」

「神楽、お前なァ、定春はもういいっつってんだろ、何？桃色定春って」

すると神楽は、桜の木を見上げ、語り続ける。

「この一番立派な桜の木の事アル、アタシが名付けたネ」

「堂々とした佇まい、大きく伸びた枝から広がる、無数の花びら・・そうまるで両翼を広げた天使のようネ、だから桃色定春って名付けたアル、今」

「今名付けたのかよ、道理で適当だなって思った」

と、冷ややかな目になっている銀八。

「適当じゃないアル、ちなみにあの木は右大臣定春、あの木は大魔王定春、あの木は定春若社長」

「統一感がねェじゃねェか、何でもかんでも定春って付ける時点で適当ってしか判断しようがない」

「これは自由人たちの宝箱アル」

と、公園のゴミ箱を指差して言う神楽。

銀八「（コイツ、赤毛のアンかコノヤロー）」

神楽「じゃぁ、銀ちゃんは・・・パー子でいいヨロシ」

銀八「大体な、今は勝手に名前をつけてはいけない世の中なんだ！命名権（ネーミングライツ）っていって球場とか球技場に名前をつけるのにも金がかかるからね！悲しい話その内、山や川にもＩＴ企業の名前がついたりしてな、富士山とかその内ヤフーＢＢ山とかなりかねん、なんでも金で解決しようとする・・・全く、嫌な世の中だな、金汚い世の中に絶望した！」

神楽「これ、作者が絶○先生の単行本を見ながらかいているから、アタシはともかく、銀ちゃんの性格がおかしくなっているような気がするけど、絶望する事ないアル、世の中は希望に満ち溢れているネ」

と、その横でまたしても首吊りを試みようとする銀八。

「これはきっと身長を伸ばそうとしてたアルな」

「何言ってんだこのガキ、首をロープで吊って、身長を伸ばそうとするバカが何処に居るん！？」

「アタシのパピーも、よく身長を伸ばそうとしてたアル」

と、神楽は脳裏に、つるっ禿げの上から鬘を被ったエイリアンハンターとして色んな惑星で活躍している神楽の父親・星海（うみ）坊主が、借

金を苦に首を吊ろうとしているシーンを思い浮かべる。
その下から何をしているのか黙って眺める幼少期の神楽。

「パピーは辛い事があるといつも身長を伸ばそうとしてたネ」

「いやそれは違うから、コイツの頭、消費期限が半年も過ぎたナマ物みたいに腐れ具合が酷いじゃねェの言っとくけどポジティブにも限度があるからね」

「マミーは私がちいさい頃に死んじゃったけどパピーが身長を伸ばそうとしてたときはそれに乗るようにして身長を伸ばそうとしてたアル」

「コイツ、手のつけようのないバカだ」

と、ツッコむ銀八。

「銀ちゃん身長全然低くないアル、何センチネ？」

「１７７ｃｍだ、身長を伸ばしてたんじゃないっつんてんだろ」

前述の通るたるんだ見た目の持ち主の男と、大食い、スパイシー少女、出会ってはいけない２人が出会ってしまった。
てか銀八が自殺しようとしてたシーンはどういう事かって？あれはネタが思いつかなかったから気まぐれである。

＊

キーンコーンカーンコーン、と私立・銀魂高校に響き渡るチャイム。

３年Ｚ組は朝から相も変わらず騒々しい。

お妙にストーカーするゴリラ、しかし事如く返り討ちに遭うんだが、飄々とＰＳＰで遊んでいる透き通った目の青少年、タコさんウインナーを食べられた事で顔が濃い国籍不明の留学生と喧嘩するチャイナ、ロングヘアの男にアヒルペンギン、個性豊かな面々のクラスの教室の前方の引き戸がガラっと開く。

「ギャーギャー、うるせーンだよ！中２のノリですかコノヤロー」

「先生質問でーす、さっきのシーンを窺う限り、何で先生みたいな強い人が自殺未遂計らなきゃならなかったんですか？」

と、風紀委員の土方。

「あれは先生主人公が登場するシーンにふさわしいからなんでーす」

「じゃぁ先生、もし万が一死んじゃったらどうするおつもりですか？」

と、今やすっかりストーカーゴリラというレッテルを貼られてしまった風紀委員・近藤勲。

と、銀八は煙草の煙を吹きながら、

「大丈夫だ、ギャグモノは、余程の事がない限り、普通なら死ぬような危険行為を行っても死なないのがお約束なんだよ」

「銀ちゃん先生、この笛イカレたアル」

と、ちくわを吹奏楽の演奏をするかのように中心の穴に空気を入れる神楽。

「バカか、それはちくわだ、それにイカレてるのはお前の頭だ」

と、生徒名簿に隠してあったジャンプがはみ出ているのを見つけてしまったヤス。

「あっ、ジャンプ・・・」

咄嗟に気付いてないフリをする。

新八「・・・転校しよう」

第七訓（後書き）

金八先生ファイナルが3月27日19時～4時間スペシャルであります。
32年間に全8シリーズがOAされ、歴代卒業生たちが大集合との事。

第八訓（前書き）

山木康広

怪物並みの戦闘能力をもった天人。
バイトをクビになり途方に暮れてた所を銀さんに拾われた。
神楽に好意を寄せている。
新八ほどではないが寺門通のファンである模様。
家族については兄がいるらしいが、今後詳細が明らかになるだろう。
江藤裕哉とは戦友だったが、ある事をきっかけに険悪な仲になり、
果たして再び互いに仲間になる日は来るのでしょうか。
３・７生まれ　１７９ｃｍ　５７ｋｇ

第八訓

かつては幕府の入国管理局局長だったが、警護の対象であるはずのハタ皇子を殴り飛ばして幕府をクビにされた上、妻・ハツにも逃げられ、自身は切腹を命じられたが怖気づいて逃亡してという波乱万丈な経歴の持ち主であり、グラサンがトレードマークの長谷川泰三。その後も転職を繰り返すも、銀さん等が関わった事により、悉く解雇処分を喰らう可哀想な奴。
今も正に就活中の身である。

公園のベンチで求人情報誌を読んでいると大量のコスプレ衣装を担いだ銀時を見かける。

「ん？銀さーん」

「長谷川さん」

＊

「それ求人情報誌？どうせまたクビにされるんだから、諦めれば？」

「冗談キツイよ、てかナースとかメイド服とか色んなフリフリの服、何に使うの？まさか神楽ちゃんに着させるとか？」

正に図星だ、珍しい事に沖田が単独で万事屋に乗り込んできて、何か面白い遊びはないかと言って来て、康広が顔を赤くしながら「コスプレ大会はどうですか？」と要望を出したので仕方なく十徳の所へ行き、十徳の娘にも試着させたりもしたが、「他にも試着させた

い奴が居る」云々とか上手い事言って万事屋に帰る途中だったのだ。

「んなバカな話があるか、変態じゃねェか！俺たちが女装似合うかどうか着るんだ！」

＊

「な～んて見栄張って言っちまったけど、どこかの西郷んトコのバーに連れてかれ、パー子とパチエにされちゃったからな、それを見た読者たちが吐き気を催したなんて言うまでもねぇ・・・女装なんか似合わねェよ、この中でこの衣類が似合うの神楽しかいねぇじゃねェか」

「えっ、何でアタシネ？」

「いいじゃんよ、あのゴリラ女すぐ暴力に走るから厄介だし、あのメス豚も肝心なときに限って居ないし、でもいいんだぞ、てめェが将軍の頭に乗せた事マスコミに流しても・・・あーあ、打ち首は免れないよなァ」

と、銀さんの脅し文句に冷や汗をかく神楽。

総悟「どうやらチャイナ、命の危険に晒されないとＯＫしてくんないもんな」

ヤス「あんた言い方が恐い」

と、その横でアイドル・寺門通のＣＤをヘッドホンで聞く新八がいることを忘れないように。

＊

神楽はメイド服を着させられ、沖田とヤスの絶好の被写体になっている。
サイズも丁度合っており、文句は一つもつけようがない。

総悟「いいぞチャイナ、こっち向け」カシャッ

ヤス「神楽ちゃん、もっと笑って」カシャッ

総悟「お前、頭の団子外したほうがいいぞ」

まるでグラビアの写真をスタジオで撮っているカメラマンのようだ
この2人。

そんな中、てか皆は銀さんは原作で以前「俺はどちらかっつったら
ナースの方が好きだ」って言ったのご存知だろうか。
後々想像したくない人も居るかもしれないがそれを神楽ちゃんに着
させようとしているのだ。

「実際着てみると楽しいアル」

彼女も照れ顔になりながらもかなりエンジョイしているようだ。

銀時「じゃァ神楽、次はこれだ」

神楽「ナース服」

銀時「そうだ、俺の好みなんだ、コスプレ楽しんだろ？」

＊

ナース服神楽、麗しすぎてやり場のない喜びの3人。
にしてもうっひょォー可愛いィー（ｂｙ九志郎）

「調子乗るなナレーション、ヘーイこっち向け、笑って、それも福引でハワイ旅行当てたときみたいに満面にな」

他にもブルマの体操服で体操座り、キャビンアテンダントなど、色々な衣類を着させた。

＊

「・・・トイレ」

ソファに座っていた新八が尿意を催し立ち上がる。

「ん？」

寝室で男3人が神楽に近づいて何かやっている、口付けしているに相違ない。

新八「うわァ、見てはいけないものをみてしまったァ」

と、叫びながら慌ててトイレに駆け込んだ。あのチェリーボーイには刺激が強すぎる光景だったな。

＊

総悟「目のゴミ取れたかチャイナ」

「取れたネ」

ヤス「てかアイツ（新八）バタバタうるさいな」

銀時「どうせお通ちゃんの曲聴いてテンション高いんだろ、気にするな」

「チェリーボーイで悪かったな！どさくさに紛れて気にしてること言わないでくださいよ」

さすがかぶき町↓川棚町のツッコミ王。
しかし逆に言うとツッコミしか取り柄がないと言えよう。

「やかましいわァァ。・・・銀さんとヤスくんと沖田さん、まさかよってたかって年頃の少女に性的なイタズラを・・・」

こういったパターンの話だとどうしても置いてけぼり的ポジションが勘違いしちまう。

「お前ナレーションからもなめられてるみたいだな」

と、振り向いた新八。

声の主は土方氏。

「あっ、土方さん」

「総悟ここに来なかったか？」

「それが沖田さん、ヤスくんと銀さんの3人で神楽ちゃんにキスしてたんです、向こうの部屋です！」

「ハァ？何」

寝室に駆け込む新八と土方。

「君確か…尚央(たかひろ)くんだったよね」

銀時、必殺の名前間違え。

土方「誰だよ尚央って」

新八「それよりあんたらさっき何してたんですか？男3人神楽ちゃんを囲んで…完全に変態のする事じゃないですか」

単刀直入とはよく言ったもんバイ。

「ハァ、人聞きの悪い事言うんじゃねェよ。あれだ、このガキが目にゴミが入ったって叫びだしたからゴミを取り出すのに手を貸してやったのさ」

銀さん、サラッと事情を説明。

「ならいい、総悟、サボってねぇで駐屯地に帰るぞ、てゆーかほんとに何もされてないんだな？」

「さっき銀ちゃんが言った通り何もされてないアル」

土方「もしコイツらに限らず誰かにセクハラされたら連絡せろ、お

前がこれはセクハラって思った時点で立派なセクシャルハラスメントが成立するからな」

くわえタバコに火を点けながら万事屋を後にした。

ヤスが窓の外を見てたそがれていた。

本当コイツ高いか低いか解らない声してるな。

「何か言ったか？」

いや何も。

第九訓

私、恋をするとダメなんです。
と、紫のロングヘアのグラマラスな女性、さっちゃん。
街灯がポツンと灯る真っ暗な夜の街路地の電柱の影からとあるアパートの2階を覗き込んでいる。

＊

ファンファンファン

パトカーという名称の白黒の乗用車の形をした自動車が屋根に付いた赤色回転灯を廻しながらさっちゃんを署まで連れて行ってるのを屋台で飲んでいた銀八が見かける。

銀八「何があったんだ？てか連行されてる奴の後姿どっかで見たことあるな」

＊

翌日、銀魂高校―
ＳＣ室―
ちなみに職員室の銀八の机の周りはジャンプやらＰＳＰやそのゲームソフトや充電器で散乱している。
尚且つジャンプに関しては銀魂が表紙を飾っている＋巻頭カラーの場合は2冊購入しているらしい。

「ストーカー？」

「分かれた男にしつこく付き纏い、勝手に合鍵を作って家に侵入、ついに警察の厄介になったそうだ」

と、前髪が見えないこの男は服部全蔵。原作で初登場したとき、銀さんとジャンプの取り合いをして、その最中『キン肉マン』や『聖闘士聖矢』について全力で討論していた忍者だ。ここでは銀魂高校の社会教師という設定だ、でも結局そのジャンプ、よく見たらアカマルジャンプやったばってんか（ｂｙ翼）

「引き籠りの次はストーカーか・・・何なだよウチのクラスの生徒たちは」

中央のテーブルのイスに腰をかけて呆れ果てた銀八。

さっちゃん「私、ダメなんです、好きになるとその人の事が１日中気になって仕方がないんです。５分おきに電話をかけてしまったり、電話しながらメールもしたり、急にどうしても会いたくなり深夜に押しかけたり、行動が気になって盗聴器仕掛けたり」

銀八「立派なストーカーじゃねェか」

？「ストーカーアルか！？」

銀八「神楽、お前はそんな所で何やってんだ。早く教室戻れ」

神楽「いやアルなァストーカーが、こんな身近に居るはずないネ、このメス豚はただの純愛アル」

いやいやちょっと待て。純愛にしてはあまりにも度が過ぎとるぞ。

銀八「盗聴器仕掛ける事のどこが純愛なんだよ？」

神楽「まっすぐで一途な分だけ愛が強いだけアル」

銀八「いやいやお前、本来ならば辛口発言連発のはずが、何いきなりポジティブ少女に変貌しちゃったワケ！？訳わかんないよ」

神楽「銀ちゃんがそういうならまァはっきり言うと、さすがの私もメス豚のその純愛に少なからずドン引きしちゃったヨロシ」

いや、ドン‐が付いてる時点で少なからずもクソもあるか。

「ナイスツッコミだったぞナレーション、だからって今のキツすぎたからこのメス豚、ショック受けてまるで石像みたいに固まってるぞ」

さっちゃん「（・・・先生・・・私の事庇ってくれた・・・なんて優しいの・・・）」

今このくのいちに惚れられたとも知らずに（いや、もっと前から惚れてた可能性が高い）神楽と痴話喧嘩を続ける銀八っつぁん。

「ちょっとしたデープラブじゃないアルか？本にしたら売れるアル」

「確かにその類の本、売れてるみたいだが、ドラッグエンコーだ言っても所詮高校生（？）のラブ、本当のディープラブってのはよォ、課長・島耕作みたいなヤツを言うんだよ！中年のねっとりした性・・・正にディープラブ！テストに出すからよーく覚えとけ」

「そうなんです、ディープラブなんです、私ストーカーなんかじゃ

ありません、人より少し愛が濃いだけなんです」

自分でどがんすっとや。

「ああ気になる、今カレが何してるか気になる・・・気になる！！！」

銀時に惚れかけいても、それでも元カレの事が忘れられない猿飛。
正直俺、さっちゃんが怖くなってきたっちゃけど。
と、一直線に走り出し、ＳＣ室を飛び出すさっちゃん。

銀八「おいメス豚！今度侵入したら逮捕されるぞ！」

＊

さっちゃん元カレが借りているアパート―

「たかのり！」

玄関のドアを勢い良く開け、その場に立ち尽くして彼の名前を叫ぶあやめ。

「ひっ、帰れよ、もうお前とはとっくに終わっているんだ」

たかのりというその男はさっちゃんの常識外れな行動に呆れ、青ざめながら帰るように弁解する。

「私たち、あんなに愛し合っていたじゃない」

ぽかん

「ナレーションも開いた口がふさがらないでいるじゃねェか。愛し合っていただなんて、ちゃんちゃらおかしい」

窓から乗り込み登場という荒業に走っている銀八。

「どういう事なの銀八先生」

「お前そんなにそいつが好きなら本当のディープラヴを教えてやるよ、それは・・・心中する事だ！恋愛道ってのはなァ、死ぬ事を見つけたり！本当に好きなら心中してみろ！俺が今朝公園に落ちていたのを拾ってな、中を見たら自殺するために使うって思われる、はっきり言って粗品だ」

と、バックからごろごろとマッチやガムテープ、睡眠薬が出てくる。絶望先生が持ち歩いているような物だな

「するかしないかはお前次第、この俺でよかったらいつでも乗ってやるぜ、じゃっ、達者でなァ」

と言って入ってきた窓から出て行った。

って！コイツも立派な住居侵入やっか！

さっちゃん「（告られた）帰るね」

よからぬ勘違いをして、銀時を完全に本気で好きになってしまい、今まで付き纏っていた元カレの事に対する思いは綺麗さっぱり冷めたようだ。

たかのり「え？」

当然こちらは何が何なのか理解出来ずに居る。

『坂田』と表記してある表札が玄関口に飾った自宅で新聞読みながらテレビを見ていた銀八。

ニュース番組が流れているのを見ながら、新聞をなぜか不安そうに眺めている。

「・・・良かった、心中のニュースはないみたいだな」

＊

銀魂高校・ＳＣ室

「何だヅラ」

「ヅラじゃない桂だ、それより銀八先生、これを見てください、猿飛さんのここ1年の写真です」

ＳＣ室に入って早々、銀八にヅラって呼ばれたロングヘア男、攘夷志士であるが、こちらでは彼も３Ｚのメンバー・桂小太郎。

桂が持って来た数多の写真に写されたのはさっちゃんが色黒の彼氏と付き合っていたとき、それにあわせて自身もガングロに、他の写真もそれと同じパターンであり、ロックミュージシャン風な彼氏とのツーショットでは、ロックな感じになって、ラッパー風な彼氏とのツーショットでは、やはりそれに合わせるようにしてラッパー風にイメチェンしてやがる。

桂「どう思われますかの、銀八殿」

銀八「居る居るァこーゆう娘、付き合う男によってキャラを変えるんだよなァ」

ガラ、と効果音を立てながらまたまたＳＣ室の出入り口のドアが第三者によって開かれた。
そこには、銀八を意識してるであろう、女っぽく見せるために下は制服のスカートであるものの白衣にメガネ、更にはゆるネクタイ、まさに銀八の女バージョンになりきっちゃってるよこの娘。

たこウインナーを巡って喧嘩してた神楽とキャサリンも、こちらもストーカーされているお妙、その返り討ちで顔にパンチを喰らっていた近藤も、死ねという売り言葉に買い言葉状態の土方と沖田も、教室に飾っている花に水を撒いていた緑の鬼のような顔しながら優しい心の持ち主の天人、ヘドロも、３Ｚ一同驚愕している。無理はない。

銀八「やる気なさそうじゃねェかァメス豚、お祝い事にしてはＮＧ過ぎるな、まァいいや」

お妙「まァいいやって銀八さん、自分のピンチ解ってるんですか？」

銀八「何？」

銀八、国語教師という名目故、授業で黒板に教科書の詩を写して書いているとき、視線を感じているようだ。

「（アイツ、さっきからずーっと俺の方見てる・・）」

気にせず黒板に字を書き続ける。

言うまでもない、視線の主はさっちゃん。

「（まだ見てる・・・ちょっと待て、俺そんなつもりないんだけど・・・）」

その後も、廊下を通って職員室に戻るときも、帰りに道を歩いてるときも、気の毒な事にさっちゃんの視線に怯えなければならなくなったようだ。

「（ま・・まさかこれが、ディープラヴ）気が重い！」

自宅に帰った後も、しつこく鳴り響く電話、好きと書かれたＦＡＸがエンドレスに何枚も出てくる始末。

ひい、

＊

その頃、ニヤリと笑いながら大量の銀八の盗撮写真を眺めるさっちゃん。

＊

そしてこの男も忘れないで欲しい。

しーん、と静まりかえった部屋の空気。

たかのり「おかしい、こないだまであんなにしつこかったのに一切連絡が来なくなった、どういう事だ・・・気になる、気になる」

＊

たかのりは住宅街の路地の電柱に隠れ、銀八をストーカーするさっちゃんを尾行するようになった、これはいわゆるストーカーのストーカーだ。

「（あれだけ俺に付き纏っておきながら、あんな天パ野郎に乗り移るとは・・）」

そしてその後ろにもたかのりを背後から付き纏う金髪の女が。

「（何よたかのり、許せない、あの女とは別れたって言ったじゃない）」

そのまた後ろにも男が。

「（あんなに店に行って金つぎ込んだのに、男が居たなんて・・・）」

更にそいつに付き纏う女が、

「あなた私を捨てて、商売女に走る気なのね」

そのまた後ろに、髭を生やした中年の男が、

「いつも奥さんの下着洗ってるの俺ですよ」

桂「大変な事になったな」

エリザベス【ストーカー数珠つなぎ】

神楽「銀ちゃん、人をいっぱい引き連れてハーメルンの笛吹きヨロシ」

桂「いっそこのまま厄介な連中を知らない土地に連れてってくれれば助かるんだがな」

＊

数日後―

「いやァ、銀八の授業は人数以上の熱気を感じるわね」

スナックお登勢のオーナーであるが、こちらでは銀魂高校理事長のお登勢。

銀八「こんな事で喜んでられるか！」

第十訓

リュウ〜

図書館で某子育て漫画を読んでいた銀さん。

「実録子育てなんて書くなんて大したもんだ。我が子から個人情報保護法違反で訴えられたら作者完全な犯罪者だ、だからさすがに作者の下の子が小学校に入るのを機に連載辞めたそうだ」

銀さん、座っていたテーブルで勉強に励む大学生と対面していたのを隣に座っている新八、神楽、ヤスの方向に身体の向きを変え、

「へェ銀さん、面白い本を見つけましたね」

「漫画に書かれた子供もたまったもんじゃないアルな」

「そうだよな。アニメ化もしたらしいから。幼稚園に行ったら同級生から『あっお前昨日テレビに出てた』なんて言われるからさぞかし嫌な思いしてただろうよ。親の仕事のせいでいじめられるよりも可哀想な話なんてねェよ」

神楽「もしパピーが私が関する子育て漫画をこっそり書いてたらすぐ訴えるネ」

と、酢昆布をくわえながらイスにふんぞり返る。

ん〜誰か忘れてるぞ、さァ誰だったかなァ。

するとヤス、両手で本を抱え、顔を上に上げ、

「俺だよ！何お前まで忘れてんだ」

「康成（やすなり）くん、君居た？」

「居たよ！一緒に来たでしょ…いつの間に俺影薄キャラになったの」

「ナレーションからも忘れられるなんて余程冴えない証拠アル。まァナレーションは2人共たまに調子乗るけど気にしなくていいヨロシ」

まァオィもあまり冴えない方けどな。

＊

一方その頃―

戦闘民族の夜兎族の男であり、神楽の父親、星海坊主。
彼は第一級危険生物の駆除をしてまわる宇宙最強のエイリアンバスターであり、星海坊主はあくまで通称であり、本名不明。
そんな星海坊主が綴った子育て漫画がその図書館に存在した。

＊

素性は明らかになってないが、星海坊主の妻に相当する神楽・神威の母親と、今や宇宙海賊・春雨の第七師団団町であり、神楽の兄で、星海坊主の左腕を奪った張本人であり、実の息子でもある、神威（かむい）。
笑顔で人を殺すのも彼の特徴であり、子供と、強い子を産みそうな女性は将来に期待が持てるからと殺さないものの、子供に期待できない女性は躊躇いなく殺す冷酷極まりない男。

星海坊主の台詞から察するに、幼少時代は今ほど冷酷非情ではなかった様子。
その頃の彼と、神楽の幼少時代で、そこから徐徐に成長していく過程が星海坊主の漫画のテーマとなっている。

「かっか」

母親を後追いする三つ編みを一束に結んだオレンジ髪の青い目の男の子、彼こそ幼き日の神威。
鍵が閉まり、開けようとするも、身長が足りず、何もする事ができないのでベソをかきながらドアを叩くしかなかった。

ウミ坊主「男のくせに甘えんじゃねェ」

と、父親らしく厳しく躾ける。
一つ言わせてくれ、「星海」って書いて『うみ』は一発変換できないから今から『うみ坊主』か、『星海』を省略して『坊主』と表記させてもらうバイ。

「後者はやめろ!!坊主っつったら殺すぞ九志郎(ナレーション)」

と、坊主。背中にまだ新生児の神楽をおんぶしてあやしながら言う。

坊主「だから坊主って言うなァァ」

うわァァーん

神楽が坊主の背中の上で泣き出した。

「もういいよ。九志郎、お前が大声出させるせいで神楽ちゃんが泣

き出しちゃったじゃないか。はーいよしよし、ベロベロ…バー」

乳児神楽は一向に泣き止む気配なし。

坊主「参ったな…」

神威「父さん」

坊主「何だ？」

神威「面白いもんを作った」

と、出して来たのは首吊り人形。
宙ぶらりんになっているヒモを後ろから引っ張ると人形の首に絡まっているロープに似立てたヒモが一気に絞まるという日本の死刑台のような形した神威オリジナルのオモチャ。

「神威、お前またそんなものを作って…やめなさい」

と、坊主…いや、ハゲは、残虐な表現を目的としたオモチャ類ばかり発明する神威を注意する。

神威が発明したオモチャと称した粗品類は他に、人間の肉を使った料理を作るままごとセット、本物の弾を使ったエアガンなどがある。

叱責されながらも笑顔かつ飄々とした面持ちで、

「見てみなよ、神楽笑ってるじゃん」

アハハ

首吊り人形を見て喜んでいる様子の神楽。

ハゲは後ろを振り向き、

「ほんとだ。笑ってる。てかナレーション、さっきから俺の事ハゲハゲって罵って…俺をからかうのがそんなに面白いか！」

坊主さん、お疲れやな。子育ても笑いあり涙ありのドタドタ物語である事を証明している。

＊

「何じゃこれ」

と、1冊の漫画本を開いて内容に呆然とした銀さん。

「ハゲを気にした父親、三つ編みの長男に、長男と同じ目の長女…どっかで聞いた事ある家族構成だな」

と、ヤスが神楽の方を見ながら言う。

「ヤス、私の頬っぺたにご飯粒付いてるアルか？」

「いや、何かこの家族どこかで聞いた事ない？」

「確かにどっかで聞き覚えがあるネ」

君と君の家族の事だからね、考えるまでもないでしょ。

「2人の子供さんの世話でこのお父さんもヘトヘトですね」

と、銀さんが読んでる横から覗く新八。

ＴＯ　ＢＥ　ＣＯＮＴＩＮＥＤ～後半へ続く～

第十一訓

「いやちょっと待て。これ途中から読んでるからな。一番最初の序章みたいなアレはどうなってるんだろ」

と、ページを一気に巻き戻す銀さん。

＊

更に時間は遡らせてもらう。

星海坊主とマミーは、数少ない楽しみである夕食を話題に花を咲かせながら食べていたそのときだった。

わーい

生後１１ヶ月の神威が、ＵＦＯのような形をした下に何個か車輪がついた二足歩行の準備段階の乳児の為の補助歩行器　（？、正式名称不明）を走らせながら、テーブルに突進し、食卓に並ぶおかず類を次から次へと投げまくる。

さすが神威ちゃん、１歳にも満たない頃からこの悪ガキっぷりはあの極めて残酷な性格の持ち主で春雨の最強部隊・第七師団団長の原点だけあるな。

「神威、お前何やってんだ！」

と、坊主、ご飯と味噌汁を両手に持ち、必死で届かない高さまで上げて守る。

坊主「テレビの上で食べなきゃな」

マミー「うん、音だけしか聞こえないのよね」

坊主「てかナレーション、ドサクサに紛れて俺の事坊主って、しつこいぞ！！」

いや、ハゲよりはマシだろ。

坊主「うるさい！ハゲも坊主も同じだろ！」

マミー「誰と喋ってるの？」

坊主「いや、何でもない…確かに母さんの言った通り、テレビ見ながらご飯食べたいよな。そうだ、いいこと思いついた」

ん？何なんだ？星海坊主氏が考えた作戦とやらは。

＊

翌朝―

「いただきまーす」

と、食卓に並ぶオカズを目の前に、一斉に合掌をして食べ物の原料になる生き物の命をもらうという挨拶をする。

勿論の如く、神威も乳児用歩行器を頼りにこっちへ突進してくる。

「それー神威」ポーン

と、ハゲ、神威の歩行器を押して向こうへと突き放す。ものすごい

スピードだ。

「またハゲっつったなァァ」ガシャーン

コイツからかったら面白れェな。

わーい

神威も大喜びの様子。

「母さん今だ！」ムシャムシャ

テーブルとおかずの並びいつ元通りになったのかは知らないがなるほどな、神威が猛スピードで走る歩行器で遊んでいる隙に一気に食べてしまおうって魂胆か―

＊

銀時「―なんじゃこれ、全然面白くねェな、なのにこの漫画よく採用されたな」

ヤス「いや、まだ話ありますよ」

銀時「あァ解ってる、もう連載自体は終了してるみたいけどな、あまりヒットしなかったからだろ、何？男の子の育て方？あのハゲ、あの青少年によほど手を焼いたんだな」

＊

マミーに向かってとてつもない勢いで走る5歳の神威。

「あのねェブラック大魔王がねェェ」

ぐへっ

と、神威の関節キックがマミーの胃の辺りに炸裂、な～んて事にならないように―

神威「―あのねーブラック大魔王がねェ」

マミー「はいはい」

子供が走ってきたら、後一歩の所で抱き上げてあげましょうってか。

＊

わーい、わーい

ソファの背中を掛ける部分の上によじ登って遊ぶ神威。

「危ないわよ！神威！早く降りなさい」

「降りられなくなっちゃった。抱っこ」

と、マミーに両手を差し伸べる神威。

マミー「自分で降りなさい」

「んだとォォ」

と、言うと、足を滑らせ、

ボヨーン、ドシン！

ソファーに尻餅ついて、トランポリンのように高く飛び、そして床に落下。

「かーさんが…」

と、涙目の神威。

「悪くない」ゴツン

と、神威の頭に拳骨を落とすマミー。

うわァァァん

拳骨のショックで神威、大声で泣く。

マミーはそっぽを向き雑誌を読みながら、

「（抱っこは5分後だな）」

これくらい暢気じゃないと子は育てられない。

坊主「みんな、気晴らしに公園でも行くか」

今まで居間で寝そべっていた星海坊主が、立ち上がる。

「わーい」

当時幼少だった神楽&神威は当然大喜び。

＊

公園―

鉄棒、滑り台、ブランコ、ジャングルジム、数体の動物のオブジェといったアスレチックがまばらに聳える。

神威と神楽、楽しく戯れている。

後に殺し合う険悪な仲になるとも知らずに。

そして神威はジャングルジムに向かって走り出した。

すると坊主はとんでもない事に気が付いた。

「前を見てないぞ」

「神威、前！前！」

「え？」

神威は目の前に電灯の柱があると気付いたときには既に遅く…

ドーン

派手に柱と激突。

うわァァァん

他に女の子の育て方もあったが、省略させて頂くが、後書きにこう

記してあった。
俺は激しい返り討ちを喰らわし、一時期に瀕死に追い込んだもののあんな可愛い坊やに左腕を切り落とされ、尚且つそいつは俺の娘である妹の神楽をも手にかけようとするとは夢にも思わなかった、と。

＊

―とはいったものの、この御四方は

「ってふざけるなァ！！こんな本の中の話に何2話も費やしてんだァ！？」

『エイぽよ』をテーブルに投げつけながら怒鳴る銀さん。

「私たちの活躍返せェ！」

神楽も激怒。

＊

裕哉「…ヤス…」
専用の飛行船に乗り、ある1人の男の名前を呟き、たそがれている金髪色黒野郎。

「よォ、江藤くん」

と、裕哉に声かけてきたのは上述の話に出て来た神威。

裕哉「何だ神威、相変わらず女みたいな面ししてるな」

神威「それ、今度言ったら殺すよ。それよりさァ、九州の肥前って知ってる？」

裕哉「あァ、知ってるも何も。俺が狙ってる奴が住み着いてるんだ。康広って言うんだけどな。俺と奴は先輩後輩だったんだけどある事件をきっかけに険悪な仲になったんだよ。それからずっと会うたんびにまるで悲惨な内戦みたいに殺し合いさ」

「そいつ、俺の妹と、銀髪頭の所に居候してるみたいなんだ。いつか妹と、その銀髪頭を殺すのが俺の目的だからよ、『俺に殺されるんだから、それまで死ぬなよ』と、お互い言い聞かせてやるし、俺と手を組まない？」

「バカタレ。てめェの強さは認めるが。俺は単独で行動する派なんだ」

と、裕哉。派手なデコレーションをした三味線を弾きながら鋭い目で睨むようにして神威を見る。

「なるほど。所謂（いわゆる）一匹狼ね」

飄々としながら言う神威。

第十二訓

「ヤースくんっ！」

「か・・神楽ちゃん」

不意に抱き付いて来た神楽にヤスは動揺を隠せないで居る様子。

「私とデートしてくれないアルか？」

えェ、ヤスからしてみればまさかの展開だな。

「えっ、うん！僕でよかったらいつでも―」

＊

朝、ヤスは毛布を抱き枕にして、

「いやーん、神楽ちゃんがそこまで言うならァ」

と、寝言を言うヤス。

「おい神楽、この変態野郎、お前とイチャイチャしてる夢見てるぞ、どう思う？」

「はっきり言ってキモイネ、コイツ日頃から私の体でいやらしい事

考えてるストーカーアル」

冷ややかな目で見るいずれもパジャマ姿の銀さんと神楽。

どうやらヤスの神楽への思いは完全な片思いだったようだ、何か可哀想やな、と翼。

ちなみに新八は、仕事が終わると姉・お妙と一緒に住んでいる自宅に帰っているから今は万事屋には彼の姿はない。

銀時「ヤス、起きろ！夢物語はもう終わりだ、これから現実を見る時間だ」

ヤス「…夢か？あれ、神楽ちゃん」

銀時「朝起きて第一声が神楽ちゃんってどんだけ好きなんだよ、でも残念だったなァ、アイツお前の事あの凶暴女から見た真選組のゴリラみたいに思ってるぞ」

その例え、ヤスに解るのか。

「えェ」

と、咄嗟に滑った口を両手で塞ぐ。

銀時「その慌てっぷり、やっぱり図星だな」

「…」

＊

神楽に嫌われたショックで酷く落ち込むヤス。

「ヤスくん、何か元気ないですね」
勿論新八も心配するのも無理はない。
「どうでもいいネ」
と、神楽、落ち込む元凶となったという表現も出来なくもない。
新八「いやいや神楽ちゃん、どうでもいい事ないでしょ」
神楽「アイツ、アタシに性的なイタズラをしようって企んでるヨロシ」
新八「なるほど、それで神楽ちゃんに『キモイ』か何かキツく言われてくじけてるのか、確かにヤスくんも自業自得な所もあるかもしれない」
「つまりアレだ、一応あのガキも年頃の娘だからな」
と、オーナー机でジャンプ読んでいる銀さん。
それを横目に神楽は『出かけてくる』と言って玄関から一旦血巨した。
＊
ヤス「神楽ちゃん、遅いですね」
銀時「ほっとけ、その内帰ってくるだろ」

新八「そんな事言っちゃダメですよ、銀さん、神楽ちゃんが心配じゃないんですか」

銀時「いや、意外とお前の姉ちゃんに相談しにお前ン家に行ってるかもよ」

神楽の帰りがヤケに遅いから、万事屋のムードが徐々に重くなっている。

ヤス「じゃァ僕、神楽ちゃんが行きそうな所ちょっと捜してきます」

＊

人々が疎らに行き交う川棚村の中心街。

？「よォ、康広」

と、ギクっとするヤス。

どうやら聞き覚えのある声らしい。

ヤス「江藤さんじゃねェッスか、あんたこそこんな所で何してんです？」

江藤「何してるって―気晴らしに散歩してただけだぜ俺は」

ヤス「幕府から相当な危険人物って目ェ付けられた凶悪なテロリストがむやみに堂々と歩いてていいのですかい？下手すりゃ、あんただったらボスである高杉をも殺しかねないほどッスからな」

元先輩との久しぶりの対面なのにどうも怪訝な表情のヤス。

「康広、何だその口の聞き方は。少しは口を慎んだらどうだ、そうだ、後で電話か何かで知らせようと思ったけど丁度いい、面白い話を聞かせてやるぜ、ちょっとこれを見てみな」

と、江藤、車に付けてるカーナビのような形をしたモニターを提示した。

それには神楽が天井から吊るされたロープに両手を縛られ拘束されてる所が映し出された。

「か…神楽ちゃん！」

と、ヤス、驚愕するのも無理はない。

江藤「お前ントコのチャイナ服来た小娘は預かった、返して欲しかったら鬼兵隊のアジトまで来い」

上空をパタパタと騒々しいプロペラの音を立てながら飛んでいるヘリコプターから垂らされた梯子に掴まり、その場を退去した。

ヤス「チクショ…アイツら鬼兵隊とかいう組織のアジトってどこなんだ…」

＊

高杉「何やってんだお前。銀時ントコのチャイナを拐って来るなんてよォ、コイツに情をかけるつもりなんてサラサラねェ、ましてはいずれ銀時諸共殺すつもりだが人質にする必要ない、早く離してやれ、コイツらと対峙する日がいつか来るだろ」

肥前の某小さな村の風景を眺めながら言う。

江藤「やだね、いくら高杉さんの頼みでもそれはできねェ相談だ、この娘は康広を誘き寄せる為の駒だ、よく見たら可愛いんだよ」

高杉「ほォ、いやらしいぞお前」

江藤「高杉さんはこのチャイナも康広も興味ないようだけど、俺はその後者を殺す」

と、縛られて身動きが取れなくなった神楽の横でダベる2人。

高杉「悪いが俺は一旦失礼する。やぼ用が出来た」

その場を後にした。

ＴＯ　ＢＥ　ＣＯＮＴＩＮＥＤ

第十二訓（後書き）

次話、険悪な仲だった銀さんと高杉がまさかの協力！？

第十三訓

神楽「お前なんか、ヤスがコテンパンにやっつけてやるネ」

江藤「どうかな、逆に俺が山木の康広を殺すよ」

神楽「てめェ」

足をバタバタしながら言う。

江藤「いくら暴れてもその縄は普通の縄よりも頑丈に出来てるんだ、女の力では到底ちぎる事なんて出来ないよ」

ライターで煙草に火を点けながら言う。

「コラァ、今の世界の女を敵に回す発言は撤回しろォ」

暴力口調になって語尾に『アル』や『ヨロシ』を付けるの忘れてるよ神楽の姉貴。

「あれ、裕哉さん、何やってるンス？あっ、このチャイナ、どっかで見た事あるッス」

と、鬼兵隊の1人で腰に拳銃を納めたヘソ出しミニスカ色女、来島また子。

江藤「ッスッスッスッスうるせェんだよ露出狂女！知ってんのか？」

また子「何だとコラァ！まァ知ってるも何も、以前一回戦った事あるッスよ」

？「この娘、僕の為に連れて来てくれたんですか？」

と、こちらも鬼兵隊の1人、武市変平太。

「何だ武市のオッサン、まさかあんた、このチャイナの事好きなんじゃ？」

江藤が引き気味になりながら訊く。

また子「えェそうッス、武市先輩ロリコンなんッスよ」

変平太「だからロリコンではありません」

また子「ウソつけ！！」

変平太「本当です、可愛いと思っただけ、決していやらしい目で見たりはした事ありません」

ウソが上手いな変平太のオッサン。

「喧しい！お前ナレーション降ろさせるぞ」

冗談ってば、変平太さん

また子「先輩誰と話してンスか？」

変平太「ナレーションです」

また子「はァ？」

変平太の意味不明な発言に頭にクエスチョンマークを浮かべる。

＊

「おいヤス、神楽どこに居るんだ？」

と、銀さん、新八とヤスの3人で捜索している。

ヤス「それが、高杉率いる鬼兵隊のアジトらしいです」

銀時「た…高杉ィ」

今や険悪な仲と化した幼馴染みで戦友というかつての仲間に対して今世紀…いや人類史上最大の憤りを感じているようだ。

「呼んだか？銀時」

と、振り向くと、そこには花柄の着物に左目に包帯巻いた男、そう高杉晋助だった。

銀時「何でお前ここに？神楽をどこにやった？」

ヤス「いや、拐ったのはその高杉って奴じゃなくて、俺のかつての先輩の江藤です」

高杉「おゥ、そこの小僧の言った通り俺じゃない、ウチのメンバーの江藤が勝手にあのチャイナを拐って来たのさ、それと今ここに居

る俺はお前らの敵としての高杉ではない、銀時に力を貸して欲しいんだ」
仰天極まりない展開になったぞ。こりゃ
「てめぇ、散々人を裏切るような真似しておいて今更何ふざけた事言ってんだ」
と、銀さん、当然の意見と言えば正にその通りやな。
「でも勘違いしないでくれ、別に俺もお前と和解するつもりなんてサラサラねェ、江藤に人質はいらねェって言ってるのに奴は人の話聞きやしねェ、恐らくはあのチャイナが好きなのか俺のやり方に嫌気が差してるかのどっちかだと思うぜ」
「そうか、多分後者だろう、その江藤って奴が神楽を拐った理由はよ」
木刀を片手に怪訝な表情で語る銀さん。
ヤス「ここで一つ補足情報です、江藤は強い部下を沢山従えてます」
新八「何だと？奴は相当なワルですね」
「という事はその連中も高杉、お前の仕業だったんだな」
と、銀さんは高杉に問い質す。
「何の話だ、俺はアイツがそんな奴らを連れてたなんて全く知らなかったぜ」
「ウソつけ！俺たちを油断させる為に騙すつもりだろうけどそうは

いかねェんだよ」

「だから本当にそこの江藤の後輩とかいう小僧から聞くまで知らなかったんだって、そう熱くなるなよ銀時」

「高杉を庇うつもりはないけどそいつの言ってる事は本当だ、江藤は至って用心深い性格だからな、その子分たちを集めたのも秘密兵器の一環だからたとえ仲間にも下手に口を割ったりしないんだ、手下とは言え、連中も江藤と同様に用心深いのばかりで高杉を含む彼以外の鬼兵隊メンバーをも敵視してるらしい、何だかんだ言っても神楽ちゃんを助けに行くのは俺1人で充分だ」

と言って隠し持ってた刀を持ち出し、また鞘に納め、その場を退去した。

「ちょっと…ヤスくん」

新八が止めようとすると、

「行かせてやれ、奴には奴のプライドってもんがあらァ、俺たちは奴の子分らを掃除してやるよ」

と、木刀を後ろに構えた銀さん。

その横で一時的に銀さんと手を組む事になった高杉、その場を退去するヤスの背中を無言で眺めている。

＊

神楽「もう放すアル、お前の言う事何でも聞くから」

と、江藤によってボロボロにされた神楽。

また子「江藤、もうやめなよ」

「うるさい、それに俺はお前らに心を許した覚えはないからな、何度も言うが基本単独行動が好きなんだ、勿論人から指図されるのも大嫌いだ、また子ちゃんも武市のオッチャンも俺に指図したら殺すぜ」

飄々と冷酷発言をするとは恐るべし江藤。

「おい、もうそこのか弱い乙女をいたぶるのはそこまでだぞ、江藤裕哉」

と、声の主は、普段とは考えられない侍気質剥き出しのヤスが立ち竦んでいた。

キモいけど今は何かかっこ良く見える。

江藤「・・・康広、なんでここに？」

そこまで作者は考えていなかったが、そこの山木にはこう言ってもらおう。

ヤス「口だけはいっちょ前だなナレーションも知らなくていいよ、さァ決着つけようか」

と、真剣を構えて言う。

第十四訓

「よォ、敵同士のはずのお2人さんがつるんでるなんて珍しいなァ」

と、前話で説明があった通り江藤の部下たち。

「何だお前ら」

と、銀さん。

「銀時、俺はこいつらの相手するからお前はあいつらを頼むぜ」

と、真剣を構えた高杉。

銀時「ンな事てめェから指図されなくてもそうするつもりだったよ」

「お喋りは終わりだ！死ぬ時間だぞハッハッハ」

一斉に襲いかかってくるガタイのいい奴も居れば顔に傷がある奴もいる個性豊かな面々たち。

ザクッ、バサッ

「死ぬのは貴様らだ雑魚がっ！」

高杉の振った刀によって数人倒れる。

銀時「さすがじゃねェか、幕府から危険人物扱いされてるだけある

な」

高杉「攘夷戦争のとき白夜叉と呼ばれてたお前ほどの腕前は持ち合わせちゃいねェ」

新八「暢気にしてる場合じゃないですよ！後ろ！」

「何」

銀さんと高杉が同時に言う。

「よそ見は命取りだぜコラ」

と、太った侍が刀で突撃するも銀さんの震った木刀がそいつを思いっきりふっ飛ばす。

「1人倒したからっていい気になるなハッッハッハ」

中濱かハッハッハって。

＊

一方その頃―

カキ～ン

ド～ン

かつての先輩後輩が真剣を使った激しいつばぜり合いが火花を散らしていた。

江藤「なかなか強くなったじゃねェか康広、ついこないだ迄ただの鼻垂れだったのによ」

ヤス「うるせェ、あの後てめェを殺す為に腕を鍛え上げたんだ、俺はいつまでもお前が思ってる俺じゃないんだ」

江藤「よく言うじゃんよォ」

「悪いが今は江藤さんに構ってる場合じゃないんだよ」

と、真剣で突風を用いた技を使い江藤をふっ飛ばし、神楽の所へと行き、彼女の手を拘束していたロープをほどく。

「ヤス、頭が血が出てるアル」

お姫様抱っこされた神楽が気づく。

「さっき江藤とドンパチしたときに奴の真剣が額をかすったんだろ、大丈夫気にしないでくれ大した怪我じゃないから」

神楽を避難させ、江藤との戦いを再開する。

「じゃァ、遠慮なく行くぜ！」

ヤス「（江藤先輩凄い、ただの剣豪ではないのは知ってたけどまさかここまで強い奴初めてだ、いったい何したらあんな剣術身に付けられるんだ）」

江藤「（康広の野郎、地味で人柄的に脆弱そうに見えたが、一回剣

道で対戦したら俺となかなかの接戦だった、康広を尾行して日頃何してるか観察してたら筋トレした後更に１０ｋｍもランニングしてた、でも驚いたのはそれじゃない、かなり走ったにもかかわらず全く息切れしていない）」

そして長い戦闘の末―江藤の腕から血が吹き出る。

「康広、侍魂にすべてをかける心意気には感心したから認めてやる、でもいい気になるのはまだ早いぜ、決着は次回に持ち越しのようだ」

流血する右腕を左腕抑えながら言う。

「江藤、てめェ逃げる気か？」

眉が吊り上がった状態で言うヤス。

「違う、俺一時的に戦意喪失になったから代わりに連中に相手をしてもらう」

江藤、袖を破り、負傷した腕に巻き付けながら言う。が、彼が言う連中というものは一向に姿を見せない。

「あれ？」

「あァ、奴らなら、片付けて来たぜ」

と、ヤスにしてみれば聞き覚えのある声。

「銀さん！」

「てゆーか何で高杉とつるんでるアルか？」

「ほんとはこんな事したくなかったんだが、鬼兵隊メンバーに勝手な行動ばかりする問題児が居てやむを得なかったんでな、仕方なく銀時に助っ人を頼んだんだ、だから俺たちが敵同士なのは変わらない、次会ったらこの真剣で銀時、てめェを斬る」

真剣を眺めたのを経て、語ってる途中で銀さんに視線を向ける高杉。

「敵同士だァ？言われなくてもわかってらァ、俺がおめェを殺すんだ」

と、お互いに捨て台詞を吐き、背中合わせに反対方向へ歩き出す。

神楽「銀ちゃん待つネ」

新八「銀さん」

ヤス「待ってください」

江藤「いいんですかィ高杉さん、アイツらを殺すチャンスだったのに」

高杉「今回はいいんだ、そういう楽しみは後に取っておくものなんだ」

＊

神楽

「ヤス」

ヤス
「な…何？」

神楽
「助けてくれてありがとうネ」

モジモジしながら言う。

銀時
「てか今まで「」の左に名前が表示していたけどいつの間にか「」の上になってるじゃねェか」

場所は万事屋。

ヤス
ヤス「ちょっと黙っててもらえます銀さん。神楽ちゃん、そんなに礼言われたらどうすればいいか解らないから」

神楽
「あの侍野郎、いったいヤスとどんな関係アルか？」

ヤス
「アイツは俺の古い知り合いでな、ある出来事をきっかけに対立するハメになった」

神楽
「まるで銀ちゃんと高杉アルな」

銀時
「全くだ、アイツ（高杉）もどうしちまったのか未だに謎だ」

新八
「銀さん…（ほんとはかつての親友がああいう風になってしまった事に心を痛めてるでしょうね）」

その出来事というのは今後の展開で明かされる見込みである。

第十四訓（後書き）

批判、リクエストなど募集中です。

第十五訓

お馴染み、真選組駐屯地―

仕事をサボり目開きアイマスクを付けて落語を聴いている総悟。

ふと、彼の脳裏に、笑顔で微笑み神楽のイメージ像を思い浮かべてしまったようだ。

それも最近になってしょっちゅうだ。

このところあまり登場してない間に恋の病から来た性的な妄想をしてしまう症候群に陥っていたのである。

「解説はいいから、俺があのチャイナ好きって勝手に決めんな！」

顔赤くなってるぞ総悟くん。てかチャイナって・・・チャイナっったら神楽だろ、誰も神楽なんて言ってないやろ。

隠そうってして逆に尻尾を出してしまったようやな、サディスティック王子さんよォ

「もう喋ンなナレーション、喋ったらぶっ殺す」

怒られた。怖いなァ

「さっきから何騒いでんだ？総悟」

と、やって来たのは彼の上司、土方。

「声だけ出演の野郎と話してたんでさァ、さてと、藁人形をバズー

カで打ちに行くとするか」

と、部屋を後にする総悟。

土方

「また俺に呪いをかける為だろ、しかもてめェ、さっきまでサボってただろ、ちゃんと仕事しろこの税金ドロボーが！」

土方をからかいザマに走って逃げる沖田だが、あの後何かを思いつめたかのように空を見上げ、たそがれていた。

＊

「何？修行したいから稽古をつけろだと？めんどくせェよ、だいたいお前ら、修行して何になるの？この話はバトルものじゃないし基本一話完結だしサザエさん方式で歳とらないし」

原作でも似たような描写がありましたが、関係ありません。

新八

「僕、いつまでも銀さんに守られてばかりじゃダメなんです、もっと修行して強くなりたんです、てゆーか今回の語り部は九志郎くんのようですね」

銀時

「つまりあれか？なめられっぱなしじゃ気分悪いってーのか？んな事俺に相談してもどうにもなんないよ、相談に乗ってくれそうな奴、その辺探せばいくらでも居るだろ」

神楽

「姉御とかマダオとかメス豚とか色々回ったアルよ、けど皆、口を揃えるようにして『それは銀さんに言いなさい』って言ったアル」

??

「お前たち、修行しようって覚悟は本当にあるのか?修行ってのは汗と涙の連続だ、そういった苦難に立ち向かえる力がお前らにあるとは到底思えんが」

銀時

「何だヅラ、また勝手に他人ん家上がり込んで、住居侵入で訴えてやろうか?あぁ?」

桂

「ヅラじゃない桂だ、落ち着け銀時、修行をしたがっているコイツらのインストラクターに俺がなってやってもいいと思うんだが」

銀時

「勝手にしろ」

＊

御馴染み、川棚村の商店街。

総悟「あれ?お前万事屋の旦那ントコの?」

ヤス「あんたは、真選組の沖田さん」

神楽に恋する者同士のご対面。

総悟「お前も1人で何してんの?また作者の都合で忘れられてたの

かィ」

ヤス「うるせェ、その言い方は正直グサッって来ますよ」

総悟「てゆーかよォ、ナレーションさっきうざくなかった？」

ヤス「・・・確かに、何が”神楽”云々だ」

と、Ｎと書かれた覆面を被った黒い人をどこからか引っ張り出してくる沖田。

総悟「さァ、土下座して『お許しください、沖田様』と言え」

黒い人、すなわちナレーションの喉元に刀を突き立てて言う、正にドＳの中のドＳだ。

総悟「ごちゃごちゃ余計な解説入れてねぇで、早く土下座しろや」

容赦ない。

爽やかな外見の割に腹黒極まりない王子の尋問は続く。（ｂｙ翼）

ヤス「別のナレーションが喋ったな今」

ナレーション（中の人：九志郎）がドＳモード剥き出しの状態の沖田の餌食になっているのを見て言う。

そしてナレーションは土下座し、

「どうかワタクシのご無礼を何とか見逃してください、王子」

完全に沖田様の下僕状態に陥ったナレーション。

「じゃァ次は、ウンコ漏らせ」

次は何言い出すんだ。

ヤス「てか伏字にせろよ、この小説打ち切りにする気か！」

「間違えた、ウンコじゃないウ〇コ出せ」

真剣をナレーションの再び喉元に構えて言う。

「同じじゃねェか・・・ん！何かクサいぞ、もしかしてあんた・・」

その通り、ナレーションは沖田が言った通りウ〇コ漏らしたんだもん。

「・・・漏れちゃった」

「えェェ」

えェェ、と俺を含み一同驚愕を隠せないでいる。

＊

神楽「何か別のシーンが入ってたけど、いつになったら修行を始めるアルか」

桂「おえあああおあんうあうあえあおおおいいっえうえ（それはあのグラサンかけた男に言ってくれ）」

と、うまい棒をムシャムシャ食べながら言う。
グラサンっていえばあいつしか居ない。
桂が指差す先には長谷川泰三がいた。

「新八くんも神楽ちゃんもどうしたの？俺今競馬で負けてテンションだだ下がりなんだよねェ、そんなに修行をつけて欲しいなら、競馬の大穴の当て方教えてやるけど」

新八「いえ、結構です」

神楽「どうせなら、カジノがいいアル」

長谷川「それがな、オジサン、競馬は結構得意な方なんだけど、カジノとパチンコは弱いんだ、麻雀一回したんだけど、ボロ負け、でも話戻るけど競馬この前は勝ったんだ、賞金１００万、浮かれて調子に乗ったからなんだろ」

神楽「相変わらずもっさりした人生送ってるアルな、いいネ、他回るヨロシ」

と、２人は長谷川に対してそっぽを向いてその場を退去。

「旦那ァ」

と、総悟、っておい！桂逃げた方がいいじゃねぇか。

ヤス「どうしたんですか、みんなお揃いで」

いつの間に沖田とヤス仲良くなったんだ、まァそれは置いといて…

「かつ…じゃなかったロング隠れてください」

天敵同士の、狂乱の貴公子と真選組がご対面は何としてでも避けたい。

「ヅラ…じゃなかった、このロン毛の人をどっかに隠すから新八も神楽もあっち向いとけ、先に見つけられた方が勝ちで、見つけられなかった方はメシ抜きだからな、たらい回しにされてるお前らの為に親切に修行つけてやってんだ、ありがたく思えよな」

と、手で桂が呼吸困難になっているのをお構い無しに抑えつけながら言う。

「ハァ、コラ銀時！俺を窒息死させる気か」

銀さんの手を振りほどき、激昂する桂。

「バカ、目の前に警察がいるんだぞ」

と、桂の顔を再び隠す銀さん。

総悟「アレ、旦那、今指名手配中の攘夷志士の桂が居ませんでしたかィ？」

銀時「何言ってるんだねェ、総司くん、桂がこんな所に居る訳ないじゃないかハハハ、髪長い人といっても桂とは全くの別人だよ、ロン毛の男なんて世の中に山ほど居るんだからね」

鼻をほじりながら言う。

って、血が出てるぞ。

新八「銀さんまだですか？」

銀時「あァ、もういい、隈なく探して来い」

総悟「じゃァ俺もその修行って称しているかくれんぼに参加させてくだせェ」

単刀直入に何言ってんだ。

桂「これはこいつらの修行だ、外部人の参加は許可できない」

って隠れとかないと捕まるぞ、バカかヅラ

「ヅラじゃない桂だと言ってるだろ」

「あっ、桂、今誰と話してたのか知らんけど御用だァァ」

「捕まりてェのかァァ（小声）」

と、沖田が言った瞬間、銀さんは桂にアッパーを喰らわし、咄嗟に床下収納に隠す。

勿論、床下収納に桂が居ることは新八も神楽も知らない。

総悟「また消えた、どこ行ったんだ？この家のどこかにいるのは確かだけど」

神楽「ん？お前も修行アルか？」

総悟「違う、捜査だ、桂がここで突然現れたって思ったら消えたりしてるんだ」

灯台下暗しなのにも知らず、万事屋の家中を探し回った3人（新八、神楽、沖田）だった。

ヤス「この小説が始まって以来最もグダグダじゃね」

銀時「ん？」

と、ヤスの方を向く。

ヤス「いや、何でもないです」

と、言うとオーナー机にふんぞり帰っている銀さんは再びジャンプに視線を戻し、既に読み終わっているにも関わらず読み返している。

＊

「正解はここだ、お前たちまだまだ修行が足りないな、すぐ近くに隠れていたのに気付かないなんて」

と、床下収納から頭を覗かせて言う。

「警察だ！桂小太郎御用だァ」

と、沖田が言った瞬間、彼が知らせたんだろう、土方、近藤、その他隊員たちが万事屋に押し寄せ、桂に飛び掛ろうとするが、桂は窓ガラスを突き破ってその場を退去。

近藤「奴（桂）を逃がすな」

土方「桂め、銀髪侍の所で逮捕されるなんてな」

その他数名の隊員たち「待てェェ」

長谷川「何なんだ」

銀時「あいつら」

額に手を当てながら言う。

銀時「おい、お前ら、あのうざいロング野郎にガラス代弁償させるから、一緒に追って来い」

新八「え？何で俺が」

銀時「え？って何？修行つけてもらいたいんだろ？これも修行の一環だ、行け」

新八「は・・はい」

慌てるようにしてその場を後にする。

その横で新八を能天気に見送るようにして眺める神楽だったが、

「おい神楽、行くのはお前もだ、修行だよ修行」

「えっ」

新八の後を追う形で神楽も一目散に走り出す。

「すべての大人たちはすべての子供たちのインストラクターであれ、か」

ヤス「は？誰の名言ですか？」

銀時「俺の名言だ」

頑張るんだぜ、新八&神楽、いつでもお前らの周りにいる大人たちはいつでもお前らのインストラクターやけんな。

第十六訓

とある7月の暑い日―

銀魂高校―

「今日は開校記念日、ピリーさんがやってくるネ」

似合わない牛乳瓶メガネをかけた神楽が机から立ち上がり言う。

銀八「は？いきなり何言ってんだお前」

ジャンプを生徒名簿に隠して読みながら煙草を咥え、ダルそうに言う。

「ピリーさんって神楽ちゃんの知り合いですか？」

と、学ランを身に纏ったオタクっぽい雰囲気の少年、ヤスが訊く。

「ラジオ体操で知り合ったアル」

言い忘れてたがこのチャイナ、原作でも1年中毎朝ラジオ体操するのが日課となっているんだ。

「へェ」

って既に知ってるという設定ぞお前

「えっ、その話に触れるエピソード、このオリジナル小説に存在し

ないから」

この、高いか低いか解らない声野郎、とんでもない事発言しやがった。

ガラッ

第三者によって３Ｚの教室のドアが開かれた。
神楽ちゃんが言ってたペリーって人物か。

・・・と思ったら、ツンツルヘアにサングラス、赤いコートを着て「ハハハ」と暢気に笑う男が居た。

「辰馬」

銀八に辰馬と呼ばれたそいつは、原作では快援隊の隊長で、攘夷戦争のときに銀さんや桂、高杉らと行動を共にしており、現在は銀時・桂同様攘夷活動から離脱しており、宇宙船で色んな惑星を行き来する自由人だが、こちらでは数学教師という設定だ。

「アハハハハ、ピリーさんは急な用事で来られなくなったから俺が代わりぜよ」

３Ｚ一同ムカつき気味である。

「何でパリーじゃなくてお前アルか、コルァ、あっ！」

神楽が坂本をボコボコと殴り蹴りしている。

銀八「パリーって神楽、お前の友人か？誰とでも仲良くなる性格は

やめとった方がいいぞ」

神楽「パリーじゃないピリーネ提督が来たからには色々開かれてしまうけど、このバカ（坂本）も徹底的にパリーさんの代わりをうやるつもりだからこいつほっといたら大変な事になるネ、パリーは港だけでは飽き足らず、何でも開こうとする困った近所の外国人アル」

すると坂本、頭から血が流れているが、

「ワシ、トマトジュースまみれになってるき？」

銀八「それは血だ、お前さっき神楽にボコボコにされてただろ、そのときに頭を切ったんだ、って何持ってんだ？」

アジの開きを見せる坂本。

「アジの開きで今度はどうやってボケる気なんだよ、もう俺ツッコまないからね！」

「なんでも開いちゃうアルな、」

さすがの神楽も呆れ気味である。

アハハハ

と、坂本は笑いながら走り出した。

「銀ちゃん、追わないでいいアルか？学校中のありとあらゆるものが開かれるネ」

「ほっとけ、あんなバカ」

＊

図書室―

銀八「何じゃこりゃ」

長谷川「黒髪の天パにサングラスかけた人が来て図書室中の本という本を開いていっちゃったッスよ」

辺り一面本が散乱している。

銀八「開国したのがパリーだったのが坂本龍馬に塗り替えられたのかよ」

神楽「だからパリーじゃなくてピリーアル、さァあのバカ追うアル」

と、銀八の腕を掴んで走り出す。

銀八「放っとけっつってんだろ！」

＊

「あのバカの通った後は世にも悲惨な事になってるアル、全てのドアやらロッカーやらが開かれてしまってネ」

「・・・まさかこのニオイは・・・」

ニオイの元は家庭科室からだ。

今まさに、坂本が瓦斯(ガス)コンロの元栓を開けようとしている所である。

銀八「それは開いちゃダメだァァ、このままだと開港したのペリーのはずなのに龍馬が開港したって次世代に間違えて伝えられてしまうぞ。てかこのバカタレ、いくらパリーの代わりだからって開いていいものと悪いものの区別も出来ないの。、今回ばかりはただのボケにしては度が過ぎてるぞ！まァ俺ら同様、そのパリーって奴も歴史上の人物のパクリだろうけど」

銀八＝元ネタは、金八先生と坂田金時。

神楽「てかあいつもう居ないアルよ」

出入り口を指差しながら言う。

「うざいから帰ろう」

と、短髪の女性、おりょうがガムを噛みながら通学鞄を脇に挟んで教室を後にし、廊下を歩いていたそのときだった。

「マタヲ開キナサーイ女子高生」

と、台詞がカタカナ表記になっているのからしてお気づきだろう、こいつがその、ピリーである。

おりょうを逆さに股を無理やり開かせている

銀八「おい！それちょっとまずいだろ。ってあんた誰？辰馬はどこ？」

神楽「この人がピリーさんネ」

坂本「こらァァおりょうちゃんに何するきィ」

ピリーに飛び蹴りを喰らわす。

ピリー「イテテ」

腰を擦りながら言う。

「大丈夫かいおりょうちゃん」

辰馬がおりょうに駆け寄る。

「えェ何とか、それよりあの外人誰？」

辰馬「ピリーさんぜよ。なんでもかんでも開いてしまう困った人きに」

銀八「いやさっきまでピリーの代わりって言ってから色んなもの開いていたバカに言われたくないね」

＊

じーっ

ピリーの暴走は留まる所を知らない。

近藤のズボンのチャックを開く。

「ギャー何なのあんた」

「あんた、どこの誰だか知らないけどいくらこの近藤さんが下ネタ担当だからってそれはちょっと」

と、近藤と一緒に歩いていた土方。
いずれも銀八たちの前を通りかかった際にピリーの何でも開きの被害に遭ってしまった。

ピリー「ワタシソッチノ気モアリマース」ぽ

「どっちの気だァ！？何が”ぽ”だ！てゆーかあんた片言で読みにくいだけどォ、あの萌え要素ゼロの猫耳女とキャラかぶってんだけどォ」

「ピリーダモノ、シンラバンショウスベテノモノヲアケルノサ」

ピリーだけに開き直りのするのかよ。

「銀八、大変だっ！ピリーって外人がバカ皇子校長を脅して無理矢理プール開きしよった」

と、駆けつけてきたのは、金色の髪と紫の瞳を持ち、顔に傷がある女性、保健室教師の月詠。

＊

３Ｚ一同、水着に着替えている。
いやらしい事に読者が美形女キャラの水着姿を想像する所を思い浮かべてしまうのは俺だけか。

「ピリーダモノ、プールモヒラクサ」

銀八「プール開きだとォ。そこは俺が最初、水じゃなくていちご牛乳を溜めようとしていたスポットなのに。管理が厳しくなったらどうすんだ！てゆーか、前述にもあった通り人気取りみたいで俺まったく感心しねェ、お前らも嫌なら無理して水着に着替えなくていいんだぞ」

おりょう「ちょっと、さっきはよくも凌辱してくれたわね。訴えてやる！絶対に泣き寝入りしないんだから！徹底的に司法の場で戦うから！」

と、スクール水着を身に纏ったセクシーさをアピールする彼女の姿が想像できるが、ピリーにセクハラ行為をされてカンカンな様子である。

辰馬「まぁまぁおりょうちゃん落ち着いて」

おりょう「って何であんたまでここ居るの！コイツと一緒に訴えるわよ」

「ギャーギャーウルセエナ、ブス！ソンナミジカイスカートハイテンノガワルインダロ！」

おりょうは元々、ロングスカートだったが、諸事情でミニスカートを穿くようになったらしい。

「開き直ったな」

「俺ピリーだもん、開き直りもするさ」

おりょう「うまい事言ったつもりかァ」

辰馬「てかおりょうちゃんに対するブスという発言撤回しろォ」

「おい、ピリー、これやるよ」

と、銀八っつぁん。ピリーにとある週刊誌を渡す。

「コレハ、フクロトジグラビア！開ケズデカ！！」

グラビアの袋とじをワクワクしながら開くも、がっかりな様子。

「どうだそこの外人、がっかりしたか？袋とじってはよォ、大抵の場合、開けてみてがっかりするものなんだよ。世の中には開けない方がいいものがあるんだ、」

主に、

・パンドラの箱
・ウイルスメール
・ＰＳＸの後ろのフタ（修正してもらえなくなる）
・学校の門（不審者が入ってくるから）
・シュールストレミング缶詰（世界一臭いといわれる）
・両親の寝室
・黒塗りの車のトランク
・トレパネーション
・電子ジャー
・大きなつづら
・機織りの部屋のドア
・開かれた教育

「本当に心が開いてくる人間のどれだけ迷惑な事か…」

「タ…タシカニ…ピリーハ間違ッテイタノカモシレマセン」

「ソレト一ツダケ。ペリート間違エナイヨウニ」

銀八「俺の事も金八とか金時と間違えるなよ」

桂「それを言うなら俺の事も桂小五郎と間違えないように」

辰馬「ワシの事も龍馬と間違えるな」

土方「俺の事も土方歳三と間違えるなよ」

元ネタとの混合防止対策か！？

＊

マダワタシ、日本ニ来テ、誰モ友達イナイトキ、ラジオ体操ニ行ッタンデス。ソシタラアノ子（神楽）ハ見ズ知ラズノワタシニ声ヲカケテクレテ――

「お前ピリーに似てるアルな。もしかしてそいつのパクリアルか？」

スゴクウレシカッタ。

＊

「――ホント、お前は人の心の隙間に付け込むのが上手いな」

と、銀八が神楽に言う。

「デモモウムヤミニ開イタリスルノヤメニシマス、コレデ、お開きという事で」

また上手いこと言ったぞ、こいつ。

銀八「ピリーさん、それはちょっと…」

神楽「全然懲りてないヨロシ」

「ピリーだからって許さねェぞ。そんなオチ」

ハハハ、と笑うピリーに言う銀八。

＊

ピリーの店―

神楽「ピリーなのに閉店アル」

銀八「何を売ってたんだ」

新八「ピリーの店って、ネーミング的にも万事屋よりも流行らなさそうな雰囲気ですからね」

第十七訓

漫画の同人誌を黙々と書くキモオタクが居る。

皆はコイツの事覚えているだろうか。

元寺門通親衛隊の幹部で、猫耳の存在を肯定したり、コミケで知り合った女の子とメールしたりして隊長である新八にたびたび『鼻フックデストロイヤー』の刑に処せられていた軍曹（本名不明）である。

軍曹「コピーとってこなきゃ」

と、急ぎ足でコンビニのコピー機へと赴こうとする。

その途中、

うわァ

うわァ

「あんた、確か…」

「お前こそ…あっ、新八が率いる寺門通ナントカ隊に居た…名前何だったっけ？大東（おおひがし）くん？」

と、銀時、軍曹の顔を覚えていたようだ。

軍曹「全然違うから！誰大東くんって！まァ大東でもいいけど。悲

しいけど俺本名不明の設定だから」

銀時とぶつかった拍子にバラまいた同人誌の原稿を拾い集めながら言う。

すると1枚拾い忘れた原稿の一部をボーっと眺める銀さん。
その横から軍曹が顔を真っ青にしながら、

「見たな」

銀時
「何を!?」

「俺の原稿見たな」

軍曹が銀さんに飛び掛り、同時に胸ぐらをつかむ。

「ちょっと待て、そんなに他人に見られたらまずいモンなのかそれ」

「絶対誰にも言うなよ、見られてしまった以上仕方ないな、俺同人誌書いてるんだ、すなわち今落としたのは原稿」

同人誌…

「あまり人に自慢できる趣味ではないからな。てか新八くん元気にしてる?」

「相変わらずお通ちゃんに夢中だ。ったく絶望してた所を歌で励まされたか何だか知らねぇが何であんなに熱狂的になれるのか意味不能だよ。同人誌書く奴もあまりいいイメージは持たねぇが、恥ずか

しく思う必要なんてないだろ？同人誌か。パッと来ねぇが」

「書いてると楽しいんだよ。欲望を抑えられなくて。銀さんアラ×ラギ派？それともシラ×カバ派？」

銀時「は？あららぎ？」

軍曹「俺は強いて言うならアス×カガだけどな」

銀時「どっから出てきたんだ？アスパラとかアスペルガーとかなら知ってるけどあすががなんて聞いた事ねぇよ。まぁ実は俺も攘夷活動してた頃、少し同人誌やってたんだよ。疲れを癒す為に趣味半分で書いてたからな。あまり好評じゃなくても自己満足してたぜ」

銀時／軍曹「あんたも同人誌」

皆さん、既に気付いていると思うが、この2人、同人誌の概念に決定的な違いがあります。

軍曹の言う同人誌は、萌え漫画を自由に二次創作するもの。

銀さんの言う同人誌は、和風の書物の感じのもの。

「じゃァ、あんたも参加すればいいよ」

＊

ヤス「すごい熱気ですねェ」

もっとヤスの活躍を書くつもりが、最近出番少ないなァ。もうこの台詞を最後にこの話での…いやこれっきり出番が最後になるかもし

れない。

ヤス「ちょっと、それどういう事だよ！作者俺に嫌がらせするのそんなに楽しいか！？ナレーションもそれを嫌味ったらしに語るのやめてくんない」

新八「ヤスくん誰と喋ってるんですか？」

ヤス「いや、何でもない」

銀時「どうせナレーションと喧嘩してたんだろ。いつもの事だから放っとけ。にしてもまさかここまで文学界が盛り上がっていたとはなァ、夢にも思わなかったぞ」

神楽「文学？この漫画の祭典とどういう関係があるヨロシ？銀ちゃん端から見たらぬろうに剣心のコスプレしてるって思われてるネ」

？「あのォ」

銀時「はい」

銀さんに声をかけてきたのは黒髪にポニーテール、メガネをかけたごく普通の少女。

「それってぬろ剣のコスプレですよね？」

銀時「はァ？何言ってんのアンタ。確かに俺、ぬろ剣好きけどコスプレしようなんて考えた事ないね。せろって言われてもたとえ地球が滅びようと絶対にしないよ俺」

「そんな見栄張らなくてもいいです。写真撮らせてください」
侍、もしくは和服キャラは誰彼構わずそのつもりはなくてもぬろ剣を意識してると見なされてしまうのがお決まりのパターンのようだ。すっかりオタクらの恰好の餌食になってしまった銀さん。

カシャッ

銀さんを被写体とする写真を撮影する音。

「私も一枚お願いします」「私も」

いわゆる腐女子たちに被写体になるのをせがまれている。

そんな銀さんの後をさっちゃんが金魚のフンのように付いてきて、影から銀さんを観察しているとき、

「それって戦〇無双のくのいちのコスプレですよね？」

「へ？戦〇無双って何？初めて聞くんだけど」

こちらも変わった格好をしてるせいか、コスプレと勘違いされてる。

「一枚いいですか」

「目線ください」

猿飛「何なの何なの」

＊

銀時「何だんだよいったい。何を根拠にコスプレ呼ばわりされなきゃならない訳？俺が着てる着物のデザインもぬろ剣の剣心と全然違うのによ、まさか銀魂があまり知名度が高くない証拠か。ったく、これほどショッキングな事なんてねェぞ」

と、和風なイメージの書物をテントのテーブルに置き、誰か買ってくれないか待機しながら欠伸しながら言う。
銀さんもジャンプオタクと言う事もあり、その書物もドラゴンボールズのファンフィクションである、古風で侍気質な感じの小説にアレンジして書いたものらしい。
やっと第1の客かと思いきや、

ぽいっ

と、興味がなかったのか、萌えアニメのTシャツを着たオタク。
ああいう古風で和風な本、興味持てなくて当然。

それを目の当たりにした銀さん、頭を下に下げ、酷く落胆する。

「1冊も売れない。やはり俺には文才は無いのか。それとも内容があのオタク共にウケなかったのか？ドラゴンボール面白いのに。てゆーかアイツらはもっと萌え要素の入った漫画しか眼中にねェのかよ、ほんと引いちまうぜ」

？「これください」

銀時「え、買ってくれるんですか？俺のこのつまらない文学集を…ありがとよ！」

買いに来た客は神楽以外の何者でもないのだが、銀さんはそいつを神楽だお気付かずに、

「好きだぁぁ」

神楽に抱きついた銀さん。

「…はっ、神楽！お前、また人の心の隙間に入り込もうとして、危ねェ。もう少しで銀神になるトコだった」

＊

一方その頃、グラナドのコピー本を1冊３００円で販売している軍曹は、ＴｏＬｏｖｅるの同人誌に読みふけていたときだった。

？「面白そうだな、ちょっと見ていいか？」

軍曹「どーぞ」

「イライラするこーゆうヤマなしオチなしイミなしな、起承転結のはっきりしない漫画」

と、こちらも覚えているだろうか、真選組動乱編に登場し、土方を殺し真選組を我が物にしようとした独裁者として恐れられてた伊東鴨太郎。

原作ではその後の消息は不明という事になっていたが、レギュラーキャラの中にきっちりタイプが居なかった為、ゲスト出演させている所存だ。

勿論、軍曹も自分が描いた漫画の事でこんなにボロクソ言われて”何も言うな”と言う方が無理がある。

「何なんだあんた！俺が描いた漫画にケチつけるくらいなら今すぐお引取り願いたい」

「うるさい！漫画アニメオタクの廃人風情が俺のようなエリートに大口叩くな！４コマ漫画以外認めない、今すぐ描き直せ」

「今の悪口、ちょっとグサッてきた。撤回しろ。しかも今ここで描き直すなんて無理難題は受け入れられない」

＊

軍曹がやむなく描いた４コマは以下の通り。

起：主人公が電車の中でヒロインに一目惚れ。
承：もう１人のヒロインの登場。そしてもう１つの恋愛フラグ
転：好きな女を１人にしぼり切れずに自暴自棄になる主人公
結：２番目のヒロインと晴れてゴールイン

伊東「これでいいんだよ」

軍曹「いいのかよ、なんて単純な野郎だ」

伊東「でもどうせ漫画描くなら、もっときちんとしたモノ目指せ」

軍曹「きちんとしたもの？さっきあんたがダメ出ししたグラナドの同人誌も結構きちんとしてる方だと思うでござるが」

＊

伊東と別れた後、1人で祭りの会場を闊歩していると、両手を壁についてうずくまる神楽の姿を目撃する。

「お前確か、志村隊長が勤めてる所に居るチャイナ、何してんだ？」

「あっ新八に『鼻フックデストロイヤー』喰らわされてた奴」

「その覚え方やめろ」

「あたしを漫画甲子園に連れてって」

「何言ってんだ。南ちゃんか」

？「それだ、きっちりしてそうだな」

と、声の主は鴨太郎。

軍曹「あんたまだ居たのか！」

伊東「漫画を描くなら、まんが甲子園目指すんだな！」

＊

軍曹は真選組駐屯地に漫画を描かせられに来ていた。

「拷問だろこれ、俺何も悪い事してないでござるよ」

机に座り、ペンを持ち、前もって文房具屋で購入してきたと思われる原稿用紙と対面しながら言う。

「いいか、起承転結のはっきりした４コマ漫画を描くんだ」

？「おいお前（伊東）、今更ここに何しに来たかしらねぇが、俺も漫画描かせてくれェ」

沖田。万年筆を片手に軍曹の漫画に興味をそそられている様子。

「沖田くん、起承転結って意味解ってるか？」

「久しぶりの再開と思ったら偉そうに…これだろ？」

沖田から手渡された原稿用紙を見る鴨太郎。

起：街を歩く土方。陰でバズーカを構える沖田。

承：沖田が放ったバズーカが炸裂、土方に直撃

転：道のど真ん中にただの肉塊と化した土方が横たわる。即死のようだ。

結：沖田、故・土方の後を継ぐ形で副長に就任。

「ちょっと違うなァ、内容がグロ過ぎるし」

「でも将来的にこうなるぜ」

「何が起承転結だ」

「おや土方さん」

「何だこの『土方死亡』って。副長の座は簡単に渡すもんか。総悟、俺はお前よりも長く生きてやるからな！！」

「実際世の中はよォ、起承転結だけでは済まないんだよ。大抵の場合、禁断の5コマ目が存在するんだ」

起、少年2人が塀に落書き。
承、それを家主に見つかり、1人は逃げたものの、もう1人は逃げ遅れる。
転、怒られると思いきや、絵の指導をしてくれるらしい。
結、どうやらあの家主のおじさんは絵の先生だった。
闇、喜ぶのも束の間だった。絵の先生だというオッサンは育成した教え子に自分の筆を握らせ、如何わしい世界へ連れ込む悪徳商人だった。

銀時「闇があるんだよ」

土方「起承転結闇って何だよ？万事屋何勝手に上がってきてんだ。公務執行妨害でブタ箱ブチ込むぞ。」

軍曹「起承転結闇！？聞いたことねェ」

「辛(つら)い5コマ目があるだかんな」

・赤い靴履いてた女の子の5コマ目→結核
・無職になった人の5コマ目→後から税金請求
・ナンパ成功の5コマ目→美人局
・巨人継投の5コマ目→シコースキーの敗戦処理
・ピン子のダイエットの5コマ目→リバウンド
・痴漢冤罪の会の人の5コマ目→盗撮
・「いま、会いに行きます」5コマ目→現実で妊娠
・暴走族社会の5コマ目→旧車会
・ラーメン戦争の5コマ目→主人監禁

軍曹「別れたはずの相手にかけちゃう電話も闇でござるか？」

銀時「あァ、闇だな」

第十八訓（前書き）

わたしの地元風に改竄してみました。

第十八訓

『そう、じゃあアレだけど、元気にやってるのね』

「ん、まァな」

とある公園の公衆電話の受話器を耳に当てたサングラスがトレードマークといわれた男が佇んでいる。

別居中の妻・ハツと電話越しに会話をする長谷川。

長谷川「いやでも前の仕事の貯金もあるし、全然生活の方は心配ないから」

ハツ『また見栄張っちゃって～困ったらちゃんと相談してよね大丈夫？』

長谷川「ぜっ全然だよ。割かし良い部屋に住んでるし・・・ウン、かなりオシャレな生活してるよ」

『まァホント・・・じゃあ今度掃除がてらに見に行こうかしら』

「！！いや！！いいよいいよそんな掃除なんて」

『どうせアナタの事だから、また部屋中ゴミだらけなんでしょ』

「いやいいって！そんなの悪いしさ」

『何？私に見られたら困るものでもあるの？』

「そ・・・そんなんじゃねーよ！！全然キレイにしてるしィ！！全然大丈夫だしィ！！」

『アラそれは楽しみ、それじゃ週末ネ』

と、ハツ、長谷川がついた嘘を鵜呑みにし、ほんとは路上生活してるとも知らずに次の週末に夫のオシャレな部屋を見るのを楽しみに構えながら電話を切った。

「あっちょっと待っ・・」

いわば絶体絶命のピンチに陥ったグラサン野郎、どうすればいいか解らず受話器を耳に当てたままその場に呆然と立っている。

？「オイオイ妬かせるねェ」

と言ったのは御馴染み、銀さん。ヤスも一緒だ。

銀時「私、掃除に行きたいってか？そのまんま居座っちゃうつもりなんじゃねェの奥さん。そろそろやり直していい頃なんじゃねェの、一緒に住んじゃえば？その、素敵な家に」

長谷川「借金取りに踏み込まれ、家を飛び出して来たのが2週間前。最初の夜はそれほど苦でも住処なんてスグに見つかると思っていたからなんだろう。だがどこに行っても俺に部屋を貸してくれる者など居なかった。そう、借金を踏み倒す家賃を踏み倒す、そんな事の繰り返して来た俺は、いつの間にか業者のブラックリストって奴に名を挙げられていたんだ。もう俺に金を貸してくれる業者はない、

部屋を貸してくれる業者はない。そう、この川棚村に俺の居場所はもう無いんだ。宿無しなんて一日だけのつもりだったんだ、それが、こんな…こんな…」

と、犬を連れ、もう片方の手にはラジオを持ち、『みかん』と書かれた段ボールを着用するようにして下から足を突き出したスタイルで町を歩きながら語る。

銀時「いや、でも、なんか今までで一番しっくりきてるよ。犬・ラジオ・段ボール、宿無し三種の神器を完璧にはきこなしてんじゃん、ついに天職をみつけたな」

長谷川「いや天職っていうか無職なんだけど」

銀時「ＦＦ？も色々ジョブチェンジ出来たけど最終的にさ、最初の『たまねぎ剣士』が最強だったじゃん、アレと同じだよ」

ヤス「でもそれアレですね、ダンボールに『みかん』と書いてあるから長谷川なのに『私の名前はみかんです』ってアピールしてるようですね」

銀時「確かにウチの山梨くんの言った通りだよ、みかんたまねぎ剣士のような感じ」

「山木です。何山梨って、富士山で有名な？江戸の隣の富士？」

長谷川「何それ？フォローしてんの？それともぶっ飛ばされたいの？コレのどこがたまねぎ剣士？」

銀時「たまねぎの腐ったみたいな匂いがする、クリティカルヒット

した今の…」

「宿屋でＨＰ（ヒットポイント）回復させてくれよォォォ！！段ボールでＨＰなんてなんにも回復しねーんだよォォ！！どうすればいいんだ！！こんな姿、ハツに見られたらヨリ戻すどころか確実に捨てられる」

と、地面に両手をついて嘆く長谷川。

「つーか自業自得じゃね」

と、眠そうな目で言う銀さん。

「見栄張ってそんな無理なウソつくから」

と、同じくだるそうに言うヤス。

長谷川「週末までに何とかしねーと！！週末までにオシャレで素敵な部屋用意しねーと！！なんとかなんねーか銀さん！！お前なんてとっくにブラックリストに載ってそうなもんじゃん、ブラックリストどころか真っ先にデスノートに名前書かれそうじゃん」

銀時「そうだな。じゃ、俺のデスノートにもお前の名前書いとくわ、じゃあな」

ヤス「それついでに愛用してたサングラスに裏切られて死ぬって書いといてください」

銀時「わかった」

長谷川「待って！！待ってェェ」

＊

東〇不動産―

川棚村の栄町にある、お隣の波佐見、東彼杵をもカバーする町内唯一の不動産屋。

「長谷川泰三、３８歳。職業、たまねぎ剣士。なるほど。えーと、すいませんけど、たまねぎ剣士って具体的にどういった仕事なんですか？ど忘れしてしもうて、ＦＦのアレって聞いたとですけどね、確か…」

と、茶髪の天然パーマに爽やかな印象の青年の相談員兼事務員。

長谷川「え？え～っとあのアレです」

銀時「たまねぎを腐らせる仕事です」

「ドラクエなら中３のときはまっとったけどＦＦはした事ないけん知らんさね。そのたまねぎ剣士ってワイン的なものを作ってアレする感じのアレでしたっけ？」

長谷川「そーです、アレする感じのアレです」

「あーハイハイ、そういや、１回テレビで見たアレね～プロフェッショナルでしよった」

「えっ！！」

「プロフェッショナルじゃなかか、あのアレです。ミュージックステー・・」

ヤス「だァァ！やめろォォ」

孝兵衛（相談員）／長谷川「…」

孝兵衛「…アレ？ウソ言った感じになっとる？俺いけン事でも言ったと？ウソ言ったって思っとる？ホント知っとるバイ」

長谷川「ハハ大丈夫です！！信じてますよ！！」

孝兵衛「いや信じとらんよね。今一瞬変な空気になったよね。クソォ、タイちゃんと裕ちゃん…兄貴らはともかく、あの女…ウチの家内さえ生きてればなー。のちに家内となる彼女と一緒に例のその番組見よったけんがさ、証人になっとに～…昔よう兄貴たちとドラクエで遊びよったな～一番上の兄貴は１０年前に死んじゃって、二番目の兄はいつの間にか蒸発しちゃって、家内も１年前に死んじゃってさ～クッソォ～」

長谷川「いや、あの、もうホントいいから。その話は」

ヤス「死んだって本当か？何か適当にでたらめな事言ってるようにしか見えないんだけど」

すると、茶髪にショートヘア、美人な女性が相談屋にやってきて、

「孝ちゃんさ、洗剤切れたからエ〇ナまで一っ走り頼むわ」

そう言った彼女の名は古井かおり。

「今仕事中さッ！！ぶっ殺されたかとか！！クソババァ」

かおり氏に向かって頭ごなしに暴言を吐く孝兵衛。

「お前が死ねクソダコ！！」

と、孝兵衛に向かってさっきの暴言を返すように言うかおり氏。

一同沈黙の空気に苛まれる。と、九志郎。

「…あの…じゃあ物件紹介するんで行きましょうか…」

「あっハイ…」

と言い長谷川は、銀さんの方向に首を向け、

「…おい、なんか普通に物件紹介してくれるみたいなんだけど。ブラックリスト行き届いてねーのここまで…つーかあの適当な青年何？」

すると銀さんは、顔の下辺りを撫でながら、

「あれはな、この川棚村の救世主（メシア）と呼ばれる古井光成の三男の、古井孝兵衛青年だ。かぶき町もそうだったが、この川棚にもアンタのような得体の知れない連中がわんさか居る。誰かに追われてる者、脛（すね）に傷のある者、誰も相手にしねぇどん底を生きる連中。そんな連中に手を差し伸べ、居場所を提供してくれるのが不動産屋だ」

と、語り続ける銀さんは道を歩いていた男性に道を尋ねる孝兵衛を見ながら、

「生きとし生ける者ってさ、ただそれ客選んでないだけじゃねーの」
長谷川「なんか適当にやってるだけのような気がすんだけど、あの若造。物件紹介してもらえるのは嬉しいんだけど、何か不安なんだけど」
孝兵衛「長谷川さん、なんか具体的にこんな部屋がいいとか希望とかありますか？」
「ええまァ。まず安いのが第一条件ですね、あとできればちょっとオシャレな所がいいけど」
銀時「贅沢言ってんじゃねぇぞ、んな事言える身分かたまねぎ剣士が。屋根があって雨露凌げればそれでいいだろ」
長谷川「ンな事言ったってハツが…」
銀時「まァ安い１ＬＤＫとかですかね」
孝兵衛「１ＬＤＫ？」
銀時「うん、１人モンは１ＬＤＫでまァ充分ですよね」
孝兵衛「…そっそうだよね～１人モンはやっぱりワッ…１ＷＧＴＭが一番だよね～」
銀時「え？今なんて？」
「ワッ…ワン…３Ｐが一番だよね～」

「いや３Ｐの話なんかしてねーよ」

長谷川「……」

「いや解ってるよ。自分カタカナが苦手でして言い辛くてですね～。ちゃんと解ってるからちゃんと連れてくから。え～とこれなんか大分いいカンジのアレじゃないかね」

と、長屋の住人に飼われている犬の小屋の前に立って言う。

長谷川「犬（わん）ＬＤＫじゃねェェェ！！何で汚ねぇ犬小屋に住まなきゃならねぇんだよ。アンタ完全に１ＬＤＫ知らねーだろ」

銀時「いや知ってるよコレはアレだよ。長谷川さんのその汚い犬を捨てて行こうと思って」

「余計なお世話なんだよ！！」

ヤス「いやいやコレ、アレです。あの不動産屋、長谷川さんをイジメてるんです」

「ちょっとちょっとイジメてるだなんて人聞きが悪い。勘弁してくださいよ。不動産屋が１ＬＤＫ知らない訳ないでしょ。日常的に出てくる言葉ですよ」

銀時「じゃあ使ってみろよ」

「あの…アレ旅…から帰ってきた時よく言いますよね――」

＊

孝兵衛が木製の浴室の浴槽に浸かり、

「あ～やっぱり１ＬＤＫが一番だわァ」

＊

長谷川「――言わねーよ！『我が家』でいいだろ。何でわざわざ言い辛い１ＬＤＫに置き換えなきゃいけないんだよ！」

孝兵衛「すいません。正直言うと、今ウチ１ＬＤＫが実家に帰ってまして」

長谷川「１ＬＤＫが帰ったってどーいう事だよ。お前が帰る所だろ」

銀時「何かもっと別の物件にしてもらえませんか。ぶっちゃけ１ＬＤＫに拘りがある訳じゃねーしな。安きゃいいんだよ安きゃ」

「ああ、それならありますよ。来てください」

＊

長谷川が連れてこられたのは川棚村役場の隣のマンション。

４階までしかないのだが・・・。

「人の話聞いてたァァ！？」

と、ツッコむ長谷川。

４人はエレベーターに乗り込み、孝兵衛が口を開き、

「ウチが取り扱ってる物件の中でエレベーター付きの所は２箇所しかなく、ここがその１つであるので最上級の部類のマンションでして」

長谷川「だから人の話聞いてんの」

「いつも人気で部屋が埋まってたんですけども、つい先程部屋に空きが出ました。いやお客さんは運がいいですよ。家賃３００万なんですけど、どうですか、こんなチャンス滅多にありませんよ」

「そんなチャンスよりお前の顔面にウンコ叩きつけるチャンスをくれ」

と、キレ気味になりながら言う銀さん。

「わかりました、じゃあ負けて３万で」

長谷川「えええ」

孝兵衛「同じ３がついてるし、３万でいいや」

銀時「どんだけ適当な理由で１００分の１に！？何？怒ってんの？キレてんの？ヤケクソになってんの？」

ヤス「いやメンドくさいだけだろ。お前それでも救世主（メシア）か！？辞めてしまえ！」

エレベーターのドアが開き、って４階まで行くのに何でこんな時間

かかってんだと、疑問を抱く読者もいるが、敢えて気にしないで欲しい。

孝兵衛「実は前の住人が仕事の急用で突然出て行っちゃって、部屋がそのままなんですよ。家財もそのまま。掃除もしてなくて、その辺の処分をお客様が負担して頂けるなら3万に負けます」

長谷川「え！？そんなんでいいの！？そんなんでここ住めるの！？するする負担するよ！！家財なんてそのまま使うし、却ってお得じゃん」

そして救世主（メシア）・孝兵衛によって開かれた例の部屋のドアの向こうには…悲鳴をあげたくなるような光景が広がっていた…

「じゃあ多少汚れてるんだけど、よろしくお願いします」

ソファもテーブルも床もその他家財道具も血の海であり、更にその向こうのガラス戸には血で『ノボル』と書かれていた。多少汚れてるって…多少じゃなくて思いっきり汚れてるじゃねェかァァ！！てか汚れてるどころの騒ぎじゃねぇだろ、コレ。

長谷川は唖然としたのち、

「何をだァァァァ！」ゴーン

孝兵衛の後頭部を鷲掴みにし、テーブルに顔を思いっきり叩きつけながら叫ぶ。

長谷川「おまっ…コレ、あ…あ…明らかに殺人現場だろーがァァァ！！！処分って何！？犯罪の現場の処分！？負担って何！？犯罪の

片棒を負担んん！！」

「おおーいい眺めだな～。こりゃ夜景もさぞかしキレイだろうな」

「夜景はどうせなら神楽ちゃんと見たいですね」

「バカおめーあの大食い娘のどこがいいんだ」

やる気なさそうに窓の方を見る銀さんとヤス。

「お前らは何のんびりしてんだァァ！！状況をよく見ろ状況を！！」

「何を1人で騒いでるんだ、一体どの辺が殺人現場なんだよ」

「どのへんもこのへんもあのへんも血まみれだろーが！！もう今にもコナン君が飛び込んできそうだろーが！！」

「え？これ血なの？こういう柄の部屋かと思ってた」

「こんな気持ち悪い柄あるか！」

「長谷川さん落ち着いてください。殺人現場なんてそんなドラマみたいな事ある訳ないですよ。これは多分ここでマグロの解体かなんかしたとバイね、うん」

「そっちの方があるかァァ！何でこんな所でマグロ捌くんだよ！なんでマグロがダイイングメッセージ残してんだよ！」

「これダイイングメッセージじゃねーだろ。書道の練習やってたんじゃね？あのノボルっていう字を書こうってしたら部屋が汚れちゃ

ったんだよ」

「どんだけ力作」

「まーまーもういいじゃん」

「何が」

銀時「もう殺されても別にいいじゃん」

ヤス「もしかしたらこれ、いたずらでタバスコで遊んでたんじゃないかな？」

「いいワケねーだろ！！何他人事だと思っていい加減な事言ってんの。人殺された部屋で生活出来るか！！」

「過去なんてもんはどうでもいいんだよ。大切なのは今だろ」

「だから今、血だらけになってるから騒いでんだろ」

「長谷川さん、部屋も女と同じですよ。カワイイ娘ってのはね、俺たちなんかと出会う前に大体みんな中学高校でバカみたいな男にやられちゃってるんです」

「何の話してんの！？」

「だけんがってね、付き合い始めてそれをいちいちほじくりますか？ほじくらんやろ。そこは黙って胸にしまっておくやろ」

「そうさ、女と出会った時から俺達ゃもうそんな覚悟できてんだ。

部屋も同じさ。イイ部屋ってのはなぁ、出会った時からもうヤラれちゃってるモンなんだよ」

「部屋がヤラれてるってどーいう状況！？」

「それをいちいち過去を詮索する位なら最初から部屋探しなんてすんじゃねェェ！！」

孝兵衛「…な、なんてこった。親が経営してる不動産屋に就職…つまり不動産業界に身を置いて7年…まさか…まさか…これ程まで部屋を思う方に出会えるとは…」

涙目である。

これまでの適当な振る舞いとは打って変わって、真剣な表情になる。

「なんで泣いてんの？今の話のどこに泣ける要素があったの」

「旦那の言う通りだ。いい部屋っていうとは大体皆アバズレです。大体皆殺人事件は起きます」

「ウソつけェェ！！聞いた事ないわそんなの！！」

「部屋の持つ魔力っていうとですかね、人はその身だけでなくその精神も囚われる、かくいうこの部屋も相当な問題物件でして、実はもうこの部屋で7人の方が亡くなっています。何の影響かこの部屋に入った者は皆瞬く間に殺し合いを演じ、瞬く間に死んでしまうとです」

「アンタよくそんな部屋俺に貸そうとしたな！！しかも金取ろうとしてたよね」

「すいません。悪気はなかったんです。ただ呪いの部屋などと忌み嫌われるこの部屋が可哀想で。部屋は人が居て初めて部屋になっとです。どんなによか部屋も人がおらんやったらそぃはただの穴バイ。巷じゃ自分や自分の家族をあらゆる者を救う救世主などと呼ぶ者も居ますがね、自分ら家族一同そんな大層なものじゃありません。自分はただ、ウチの父母の意思を継ぎ、全ての穴を部屋に変えてやりたかっただけなんですよ。お前もようやく部屋になるっぞ」

チャリッ、孝兵衛は銀さんに部屋の鍵を渡す。

「旦那に差し上げます。この部屋を。好きに使ってくれてもよか。使うも使わんも旦那の自由たい。アンタやったらきっと…」

と、孝兵衛が語ると、銀さんは目を軽く瞑りすまし顔になった後、銀時「こいつは俺には勿体ねーや。部屋を必要とする奴が使った方が部屋も喜ぶだろ」

と、長谷川に鍵を渡す。

長谷川「いや部屋を大事にしてた男が使った方が部屋も嬉しいだろうさ」

と、孝兵衛に渡す。

「君にあげますよ」

と、ヤスに渡す。

「いや必要なのは長谷川さんでしょ」

っておい、いつまでやってんだ。

長谷川「それ1回聞いた」

孝兵衛「そいさっき聞いたさ。渡すとって酷くネ？」

ガシャアアン

大乱闘勃発、予想していた通りだったな。

「しつこかっさ！！やるって言いよるとやっけん持ってけ！！」

ヤス「うるせーそれはこっちの台詞だ！」

銀時「いる訳ねーだろ。こんなきもちわりー部屋！！厄介モン人に押し付けようたってそうはいかねェぞ！！」

長谷川「オメーさっきと言ってる事全然違うだろーが。持ってけよ。過去は気にしねーんだろ！！」

銀時「元はといえば全部無職のてめーが悪いんだろうが、責任取ってここで死んでいけ」

「俺はいらねー」

「もってけって」

「いらねーって言ってるだろ」

「オィの方がもっといらんさ」

ワンワン

ワンワン

白い犬が吠え、

ザザザ

コロセ

コロセ

と、ラジオ。

＊

「ホントに立派なマンション…こんな所借りるお金、どこに持ってたのかしらあの人」

と、ハツ。届けられたハガキの住所を頼りに例の四廣マンションの長谷川の部屋を目指す。

そこが呪いの部屋だとは知らずに…

「差出人不明の案内書なんてシャレた事できるようになったのねフフ」

っておい、やめとけ！！それ差出人長谷川じゃないぞ。

「こんにちは～お掃除に来たわよ～」

…

ハツの目の前に広がるのは、殺人現場のような光景が。

ベランダに続くガラス戸にはバカと表記してある。

ギャアアア

第十九訓

『肥前警察』と記された護送車が、真選組屯所の門前でサイドブレーキをかけた。
降りてきたその護送車ドライバーによって後ろのドアが開かれ、
囚人番号３－２０３４、毛利　昭剛(あきたけ)。幕府の役人２５人を殺害した凶悪な殺人鬼。人斬り昭剛と呼ばれる過激攘夷派暁党の幹部。
幕吏四十数人包囲され全身十数か所の刀傷を受けながら顔色１つ変えずに応戦し幕吏７人を殺害。
捕縛後も一切の尋問拷問にも動じず。
一言も発さず、口を閉じたままでいる。
いやこの言い方には語弊があった。正確にいえば口は開いている…っていうか開きっぱなしだ。
昭剛(やつ)はどんな拷問の中にあっても笑顔を絶やさない、いつも楽しそうに笑ってるんだ。

「…」

そんな黒髪に眼鏡、若干太り気味の過激派幹部と、周りをコンクリートの壁で囲んである薄暗い取調室で対面する土方と近藤。
近藤「近く暁党が肥前で大規模なテロ活動を画策しているとの情報が入っている。間違いなく昭剛は詳しい情報を握っている」
土方「それを真選組(おれたち)に吐かせろと？」
近藤「まァそういうことだ、やれるかね」

総悟「少なくとも拷問で口を割るのは無理でしょう。見てくだせェ、あのドMヅラ。あれが敵にとっ捕まって絶体絶命の奴に見えますか。奴はこの場から抜け出すことなど考えちゃいない。楽しんでるのさあ、この状況を」

山崎退「恐らくアレは拷問の訓練を受けていますね。奴にとって痛みは拒むものじゃない。受容し讃美される代物なんです。たとえ手足をちぎられようと奴はああして笑ってますよ。てゆーか何で俺だけ誰が話しているか表記してる名前、フルネーム？忘れられてんの？そんなにいてもいなくても気にされない存在って事！？」

近藤「…う～ん、痛みで奴を追い詰めるのは無理という事か。まァそんな事でカタつくならわざわざ俺たちの所に送られてこないわな。しかしどうしたもんかねトシ」

「取調べはただ攻め立てればいいってもんじゃねぇ。アメとムチを使い分けて奴に取り入り心のスキを作るんだ。情報を吐かそうなんて考えるな、こちらから近づきかすめとるんだ」

と、煙草をふかしながらクールに語る土方。

「とり入れるってあんな変態殺人鬼、どうやったらお近づきになれるんですか。あんな奴、クラスが同じでも友達になれるタイプじゃないですよ。卒業まで一言も会話を交わさないレベルですよ」

青ざめた表情になりながらも、昭剛と隣同士に席に座り、気まずい思いをする所を想像する山崎。

近藤「大丈夫だ、卒業前は嫌な奴ほどいい奴に見えるもんだ」

退「いや何が大丈夫なんですか、何を卒業すればいいんですか。あっ、一番左の名前表記、『退』に省略してある」

「土方さんチャンスですよ。友達つくる。3年間机に突っ伏したまま学園生活終えるつもりですか」

と、土方に振る沖田。

「人を寂しい奴みたいに言うな」

総悟「自分から話しかけないと友達なんてできませんよ。身体測定とか皆のテンションが上がってるときが狙い目なんです。『アレ、お前もブリーフ派？』みたいなあのノリでいってみなさいよ」

「誰がブリーフ派だ」

「頑張って！！勇気を出して！！トシ！！心の扉を開いてトシ！！」

両手の脇を口の両サイドに翳し、土方に応援をふっかけようとする近藤と沖田。

土方「オイ、何てめーら面倒事、人に押し付けようとしてんだ。山崎、お前いけ。お前ブリーフ派だろ、いけ」

退「いっ！？いや、俺トランクス派なんですけど」

「うるせーほとんどブリーフみたいなもんだろ、存在そのものが何かモッサリしてるだろ」ドカッ

と、山崎を蹴って取調室に放り込む土方。

近藤「開いて、ブリーフの扉を開いてザキ」

出入り口のドアは閉められ、昭剛と2人っきりになる山崎、

「（こ…恐エエエエエ！！近くで見たら滅茶苦茶不気味だよコイツ！！今にも飛びかかってきそうなんだけど！！）」

「ザキ、アメとムチだぞ。時には厳しく攻め、時には優しい言葉をかける、ツンデレの原理を巧みに利用し奴の心を掌握するんだ」

マジックミラー越しに山崎に語りかける土方。

山崎は机に座り、軽くグーにした手の脇側をアゴに添え、ゴホンと咳込みながら、

「（お…落ち着け、相手は手足を拘束されて動けないんだ。後ろのマジックミラーで皆も見ててくれるしビビる事はない。まずは一発かましたれ。奴は完全に警察をナメ切っている、あの余裕の笑顔を引き剥がさん事には何をやってもダメだ）」

と、考えた挙句、両手で机を叩きつけ、

「つぎはぎハゲコラァァァァ！！てめーはいつまでのらりくらりしらばっくれてるつもりだァァァ！！警察ナメるのも大概にしろよこのクソッたれがァ！！こっちも暇じゃねーんだよ！！今回第１９話、つまり次で祝２０話目だからそれに向けてツ〇ヤで借りた銀魂２７～３０巻、１週間の期限付きだから今度の土曜日までに書き上げなきゃならない、てめーらパッと出のゲストキャラとは違うんだよ！わかったらモタモタしてないでさっさと吐け！！こっちは忙しくて

パッツンパッツンなんでよ！！こないだなんて編集長、専攻科嫌がって不登校になった挙句退学して福岡のアニメ専門学校に行きたいの愚痴を言うのに紛れの更新の催促ーー」

土方「…何の話してんだアイツ」

「資料になりそうなコレ借りにツ〇ヤに行ったら妹から散々怒られたんだよ。俺だってさ、最近はゲームしなくても良い体質になりつつあるからそれはともかく…ホントは国道３４号線（長崎街道）を県道１１６号芒塚インター線を観光がてら長崎（肥前）の終点の県庁前（藩庁前）までドライブしてーよ、涼宮ハルヒの驚愕読みてーよ、全部我慢して肩身の狭い満員電車に乗って長崎に職業訓練に行ってんの、で帰ったら小説書いてんの。やりたい事はほっぽいてお前みたいな奴相手にしてんの！！ーー」

「…オイ、何か段々ただのグチになってね？」

「ちくしょおオオオオ、俺もこち亀の秋本先生のように仕事が早くできればナァ！！」

「ねェ…何してんのアイツ、もう全然犯人に向かってないんだけど、自分に向かってるんだけど」

「情熱大陸見ようとしたけど見逃したァ、でも翌日のジャンプのコメント欄の情熱大陸出演に関する記述があって読ませてもらったのと銀魂の、ＴｏＬＯＶＥるとのコラボ表紙や、いちご１００％の終焉を思い出したのとＴｏＬｏｖｅるの最終回でリトが西連寺に告ろうとしてまた失敗に終わって結局誰も選ばなかった展開を目の当たりにして、後者は最初はショックながらもこれをバネに何も考えずにテンション上げ上げにしてやっていけそうな気がして、やっぱり

実際はダメだった。俺はあなたたちのようにはなれません！ダメ人間です！」

「いや知らねーから。いい加減にしろよ。ここはてめーの懺悔室じゃねーんだよ」

テ～テレレ～テ～テレレ

昭剛が歌いだしたぞ。

「（…これは…情熱大陸テーマ曲、葉加瀬太郎の…！）

テ～テレテレレ

！！

「お前…」

昭剛「確かにあんたはとんだダメ人間バイ」

退「何…！？お前に言われたくないな…」

昭剛「今の状態だと就職できない事がじゃなか。山の頂を仰ぎ見て卑屈になっていることがバイ。屈めば屈むほど山頂は遠くなる。頂は己の卑小さを知る為に聳え立っているのではなかっぞ。ただ目指すためにあっとぞ。山道で屈んでいる暇があったらゆっくりでもいい、登っていきなさい。秋本山は３５年かけてできた山バイ。河端山や矢吹山も、秋本山ほど高くはなくても、いずれにしろそう容易くは登れん。あなたもそういった長い年月をかけるつもりで登れ。１歩ずつ亀のごた足取りで。そいでも頂には辿り着けんかもしれん、

途中で力尽きてしまうかもしれんけどそっから見える景色はきっと今よりマシなものになっているはずぞ」

すると山崎は席を立ち、取調室を退去し、出入り口のドアの前に立ち、

「ありがとうございました。失礼します」

頭を下げて礼をしていた。

勿論これを見た土方は黙っているはずもなく、

「お前何しにいったんだァァ！！何でお前がアメに足絡め取られてるんだよ。何でてめーにムチ打ってんだよ！！オメーが色々吐いてどうすんだ。犯人に吐かせろよ！！」

ボコボコと、逆に犯人に丸め込まれた山崎を足で蹴りまくる。

「いや、でも、お近づきになれました。ＤＶＤ焼いてもらいました情熱大陸」

「完全にお前が取り入られてんだろ」

「あっ山崎、俺にも貸してくれィ」

コレでいつも優しい秋本先生が『今一番怒っている事は何ですか』って聞かれて『取材が長いこと』って答えたレアカットがやっと見れるなおい。

山崎「ナレーション、何ネタばらししてるんだよ。あ～せっかく見

るの楽しみにしてたのに～」

土方「オメーはどんな楽しみ方してんだァ！！あの秋本先生がああ言うってことはよっぽど長い取材だったんだよ！！最後の取材陣を取材し返すあくなき探究心の方をピックアップしてみろ！！」

「山崎、お前は奴におちくられたんだよ。あんな殺人鬼に説法なんざ説かれて丸め込まれやがって、情けねェ。やはり一筋縄でいく奴ではないようだな。よし、次は俺が行こう」

と、スーツを整えながら言う近藤。

「攻めるのはもう充分なハズ、俺はアメでいく、はぐれ刑事よろしく。ゴリラ刑事人情派…情をもってして奴を説き伏せてみせる。課長、俺に何かあったら娘達のこと…頼む」

と、ドアを開けながら言う。

土方「どこに課長が居るんだ」

総悟「本当にどこにいるんだケイン・コスギ」

ドン

昭剛の前にカツ丼を出す。

近藤「ムショの臭いメシには飽きただろう。今日は特別だ、好きなだけ食べなさい。ゴリさん特製のカツ丼だ」

ぐちゃっ

と、近藤は昭剛の頭を持ち、顔をカツ丼のどんぶりの中に無理矢理押し込む。

土方「…カツ丼ってアイテムは人情派ですけど。食わせてる絵がとても人情派に見えないんですけど、非情派にしか見えないんですけど」

「実はな、私にも丁度お前さんと同じ位の息子がいてな」

土方「オイ、ゴリラ　刑事（デカ）、いったい何歳の設定だよ、息子メチャクチャオッサンだぞ」

「お前さんを見てるとアイツを思い出す。…今どこでアメリカでアクションを勉強するとかのたまっていたが」

土方「何でケイン　刑事（デカ）息子の設定になってんだよ！！」

「アレも一時は酷くグレててねェ、夜な夜なやれ筋肉番付けだ、やれＳＡＳＵＫＥだ、やれマッスル地帯だ、ばかり繰り出し」

「いや確かに危険だけれども！！」

「室伏、照英、どこの馬のマッスルともしれん奴等とつるみ、マッスルを吸ったり、盗んだマッスルで走り出したり、それはひどかった」

「盗んだマッスルで何だよ！どんな状態！？」

「そんな折、妻がマッスルをマスらって倒れてな」

「オイ、もう意味わかんねーよ。もういい、ケイン刑事の事はもういい」

「息子のあまりのマッスルっぷりに心労が祟ったんだろう。だが母が危篤状態だというのに息子は遂に病院に来ることはなかった。奴はムショにぶち込まれていたんだ」

「オイ、何ケイン刑事前科持ちにしてんだ！！」

「マッスル不法所持、奴は自室のタンスの中で密かに池谷を栽培していたんだ」

「だからどんな状態だァァァ！！」

「池谷弟ならギリギリ執行猶予はついてたが、池谷兄じゃ実刑は免れん」

「何の違い！？」

「私は怒り、失望し、奴と絶縁しようとした。親の死に目にあろうことかマッスル中毒で会えぬ奴をどうして息子と呼べる」

「だが、そんな私に恐らく一番失望し無念であろう妻が言ったんだ。逃げないでと。子供がいい事をしたとき、世界で最も喜び、誉めてやるのが親の責務ならば、子供が罪を犯したとき、世界で最も悲しみ憎んでやるのも親の責務なんだと。息子が出所した時、私は息子を力いっぱい殴りつけた、死ぬ程。だが奴が更正し、1人立ちした時、私は力いっぱい抱きしめた、死ぬ程。子がどんなになろうとそれを受け取ってやるのが親の役目だ。だが子供を憎みたい親がどこ

にいる。子を憎み、愛すのが親の責務なら、子の責務とは何だ。月並みな事を言わせてもらう、これ以上親御さんを苦しめるな。どうか私の妻のような思いはさせんでやってくれ。お前さんはたくさんの罪を犯した、今更贖えるものではない。お前の親御さんもこれから一生それを背負っていくことになるだろう。だがまだ、今なら背負わずにすむ罪もあるはずだ。今なら親御さんを苦しめる荷を１つ、取り払う方法があるはずだ」

すると昭剛は下を向いた。

近藤「！！ア…アンタ」

昭剛「…吐きます、洗いざらい全て」

「まっ、まさかあの殺人鬼があんな説得に応じ…」

おぼろしゃっ

さっき食ったカツ丼だろう。嘔吐する昭剛、具合悪くなったのか。

「別のモノ吐いたァァァァ！！」

「何じゃこりゃァァァ！！」

昭剛のゲロを思いっきり被ったゴリラ刑事。

ファンファファ〜

「なんでゲロかけられて太陽にほえろ殉職のテーマが流れてんだよ。なんでＧパン刑事みたいになってんだよ、はぐれ刑事じゃなかった

のか」

昭剛「あの…すいません、コレ、カツ丼腐っとらんや？」

近藤「ま…待ってくれよ、こりゃまだ腐ってねーよ。待ってくれ、捨てないでくれ、こりゃまだ3日前のなんだ、後から食おうととっといたんだ」

「いや腐ってんだろ。カツ丼もアンタの頭も」

昭剛「ごめんなァ、せっかく俺のために用意してくれたとに。責任もって全部食うけんそこに置いとって」

近藤「なんじゃそりゃああ…まっ待ってくれ、持ってかないでくれ、無理しないでくれ、俺ァ人殺しにはなりたくねェよ」

「オイ、イチイチ中途半端なモノマネすんじゃねーよ」

昭剛「安心せろ、あんたは悪くなかけん。おれはアンタを信じるバイ。子を信じ、共に苦しむとが親の役目やったら、無実ば信じ、共に戦う役目は、友が担いましょう」

この言葉は近藤の胸にズキューンと来たようだ。

…近藤勲、戦闘不能…

総悟「ゴリさんんん！！ゴリさんしっかりしろ！！オイ！！」

沖田が倒れた近藤を抱きかかえながら安否を確認しながら言った。

「や…やられたよ…俺の完敗だ。罪を疑った上、こんな豚の餌を食

わした俺を…友と…俺を信じると…俺には…奴は撃てない。奴が恐ろしい殺人鬼だなんて俺には思えない。マヨラ刑事、ドＳ刑事…後は…頼…」ファンファファファララ～

近藤は力尽き、

総悟「ゴリさんん！！」

土方「…どうなってやがんだ、説き伏せるつもりが逆に説き伏せられてゆく。あんな殺人鬼に」

総悟「土方さん、どうやらあっちの方が俺達よりよっぽどアメとムチの使い方が上手いらしい。土方さんの言うアメとムチとは、単純にいってしまえば、ムチでガンガンぶっ叩いてくる恐ろしい奴が、ふと優しい言葉をかけてくると普通の奴の言葉より耳障りが良く聞こえるという、いわばギャップルールのこと」

同じ言葉でもギャップがでかい方がよく聞こえる。

総悟「そこで心を許してきた者につけ入り、情報を聞き出すと言うものでしょう」

土方「何その頭の悪い道理」

「しかし奴の場合、『凶悪な殺人鬼』という肩書きを持っている時点で俺たちは既に奴のムチで打たれているようなもんあんでさァ。俺たちが奴にさあムチ打つぞという時はとっくに奴はムチを打ち終わってるんです。後は聞こえのいい台詞をはくだけでアメとムチの図式はできあがる。俺たちはどうしても奴より数手遅れてこのような結果になってしまう訳です」

土方「つまり奴はアメを吐いてるだけでムチと図式が作り出せると」
「そうです、俺たちが勝つには奴よりこちらがアメとムチを奴に叩き込むこと」
「そんな事が出来るのか？」
「…1人では無理です」
と、土方はピン！と来た。
沖田を見ながら”そうか”と何か閃いたようだ。
次の瞬間、沖田は昭剛が座っていた机のテーブルにジャンプして飛び込んでテーブルを真っ二つにし、
「オルァァ！！何まったりこいてんだ、こっから拷問の時間の始まりだァァァ！！」
土方「（上司の命を狙う、超弩級のS！！。そして…）」
と、昭剛を沖田による拷問を受けてる所を抱きかかえて救出し、
「大丈夫ですかァァ！！お怪我はありませんかァァ！！」
上司にも部下にも問題児を抱えるフォローの達人。
土方／総悟「（2人で協力すれば一瞬で極上のアメとムチが出来上がるっ！！）」
総悟「これで」

土方「終わりだ」

昭剛「あのォすいません。何しよっと？」

土方「な…」

総悟「なにィィィ！！」

アメとムチが効かない！？バカな…！？
今のは完全にクリーンヒットしたはず

「大丈夫や？座ってお話しよっか。皆さんいなくなってしまって丁度寂しいって思っとったトコさね」

その途端、砂嵐が土方と沖田を襲う。

土方）殺人鬼がさびしいだとォォォ

総悟「（コイツぅぅぅこの期に及んで超弩級のアメ玉を投げつけてきやがった…これは耐え切れないィィィ！！）土方さんどうやら俺たちは最初からとんでもない勘違いをしていたようでさァ。思い出してください、コイツの性癖はドM。つまり通常のアメとムチはコイツには通じない」

「そ…そうか、ドMにとってはムチは何ら苦痛に値しない。つまりコイツにとってのアメはムチのこと（順序が逆だったァァ！！コイツはアメムチの順序で叩きこまなければ何も効果はない！！いや待て！！さっきの俺の雨なら効果はまだ持続してるはず。つまりあと

一撃ムチを叩き込めば、アメとムチは完成する！！と一撃たった一撃…だが遠い、戦意が無くなっていく。ダメだ…もう」

土方が諦めかけたそのとき、

「…トシ…トシィィ！！」

近藤が彼の名前を呼んでいた。

山崎も復活している。

「お前ら」

力が…沸いて来る。

そうか…アメとムチは何も敵に対してのみ使うものではなかったんだな。

この窮地こそのムチ。

そしてこの窮地にあっても尚立ち上がる仲間たちこそ、俺たちを奮い立たせる最高のアメだ

男達は一斉に走り出し、昭剛に飛び掛ろうとしたそのときだった。

？「あのォ、盛り上がってる所すいません」

と、禿げて眼鏡かけた真選組の職員。

４人はそいつの顔に注目する。

「あのォ、ちょっと重大なお知らせがありまして、えーとですね、こちらに連れて来た毛利昭剛なんですがね、ちょっと連れて来る時に向こうで手違いがあったらしくて、その人、毛利昭剛じゃありません。毛利　昭隆（あきたか）っていう万引き犯捕まえた善良な一般人らしいで

す」

この名無しの設定の禿げ眼鏡が報告に来たときには既に遅く、飛び掛って瀕死にした後だった。

こんな罪もなき庶民を複数人で攻撃するなんて…

「万引き犯捕まえたとき、ショーウィンドゥにつっ込んで身体中怪我したらしいですけど、その保証とかで奉行所来とったとばってん、名前似とっけん間違えたらしかっさ。いや、ほんとすいません。今、本物の昭剛連れて来るんでちょっと待っててください」

この４人の男達の今までの苦労は何だったんだろう。

なっじゃこりゃあぁぁ！！

ファンファファンファララ～ファララ～

第二十訓

銀魂高校――

白衣にゆるネクタイ、咥え煙草、安物のスリッパといったパッとしないスタイルの白髪眼鏡が、教卓に両手を着き、

「へーイ、つー訳で、今日はてめーらに、義務教育を受けてもらう」

は？義務教育って中3までなんだけど。何言ってんだ。

「我々は高校生ですよ、先生。もうとっくに義務教育は終了しいますが」

と、お妙が手を胸に添えて意見を言った。

このクラスには義務教育はとっくに卒業してるどころか、とても高校生には見えない面子が何人かいるのだが。

まぁ、そこには触れない事とする。

すると銀八は顔を下に向け、タバコの灰が神聖なる教卓の上にポロリと落ちたのにも関わらずそこには構う事なく、

「義務…それは年々増して行く。義務って言ったって、色々あるじゃねーかコノヤロー。本人が知らない所で勝手に義務は増えて行くんだよ」

眞〇かをりのブログの更新とか、高見盛のロボコップとか！生協の白石さんのメッセージカードとか！いつの間にか義務化してる感じ

！だからってやめると『アレ』と思われるからな、イヤイヤでもつづけなけりゃならねぇ！」

様々な大手メーカーの横断幕が掲げられた野球ドームで観客がざわめく中、２つのチームが点数を取り合っている。

１歩も譲れない試合。

グローブを片手にはめたある選手が自分の出番はまだかまだかと構えている中、

ストライク！

アウトォォ！

観客「「ハンカチ」」「ハンカチは？」「ハンカチはまだ？」

ハンカチがトレードマークと思われてしまった投手は、義務感に駆られ、皆に答えるばく仕方なくハンカチで汗（というよりも冷や汗）を拭うその名は斉藤。

ワァァァ

と、ハンカチ王子による単なる汗拭きに歓声を上げる観客たち。

「ーーこの義務を怠ると、世間から謂れのない非難を浴びかねねぇんだ」

と、ハンカチ王子の影響か、ハンカチで汗を拭く素振りを見せる銀八。

「――私服着て出んなよ波田〇区」

と、テレビの中の一時期ギター侍としてブレイクしていた芸人に対して謂れのないいちゃもんをつけるグラサン。
てか何で今更波田〇区なのかと思う者もいるが、まァそれは気にしないでおく、第一作者にとってもアイツは好きな芸人リストに入ってるしな。

「何でM字開脚しねんだよ！義務果たせよ！」

エロ本にもダメ出ししてやがる。
客観的に見れば「だったら見るなよ」と言いたくなる。

「――って何で俺を例に出すんだよ！」

と、銀八の仮説回想に勝手に登場させられた事にツッコむ長谷川。

「とにかくいろいろ義務化してるんだ」

＊ほしのあき胸開き服
＊桂三枝転倒
＊石田純一の素足
＊中尾彬のネッカチーフ
＊内山君の大食い
＊叶姉妹のセレブ生活
＊ベンチャーズのテケテケテケ
＊ゆうこりんお会見中止
＊ハードゲイのハードゲイ
＊タトゥーのドタキャン

＊ハマショーのジージャン
＊ｍｉｘｉの返事　＊楽天の３９勝
＊小学館の学習日誌
＊水着扉絵
＊走る、考える、ポリベレント
＊アジアカップ優勝
＊「井上喜久子１７歳でーす」
＊「おいおい！」

「義務を忘れて非難を浴びないためにも義務教育は必須なんだよ…あ、絶望した！義務が次々と増える義務に絶望した！」

「今のも義務アルか？」

と、神楽。すまし顔で両手を握りそれを机の上に置いた仕草が何とも愛らしい。

銀八「一応な、言っておかないと何言われるかわかったもんじゃねーから」

神楽「安心するアル。義務なんかじゃないネ。誰も何も言わないヨロシ」

銀八は、反転ネガが似合う「ガーン」と効果音が出るような表情になる。
それを他所に神楽は続ける。

「義務でもなんでもないのに本人が義務だと勝手に思い込んでいる責任感の強いヤツが多いアル」

すると、こちらは原作では定春が巨大化したエピソードで初登場し、現時点ではそれが最初で最後の登場だったため、皆覚えてるかどうかは解らないが、黒髪のロングヘアーを靡かせた美女こと、阿音が立ち上がり、銀八に視線を向け、

「自意識過剰な義務なんじゃない」

銀八「自意識過剰！？じゃあ街に蔓延する自意識過剰を見に行こうか」

＊

野外学習と称して佐世保市の繁華街を闊歩する担任・銀八率いる3Zの生徒数人。

そんな中、阿音がとある店の看板に人差し指を指し、

「アレとか」

その看板にこう記されていた。

ヘアサロンタカヲヨリ
今日の一言
めっきり寒くなりましたね
昨夜は店長含めバイト一同鍋パーティーで大盛り上がりでした！
この寒さで木々たちも秋のよそおい。
秋の染色であなたの髪も秋色に染めてみませんか？※野菜たっぷり

右上には秋の新色入荷！と書かれたシールが一枚貼ってある。

「ああ、それ、楽しみにしてる人居るけんさァ」

と、イメチェンした髪の首の辺りまで伸びた推定４０代位の男がすっと出てきて助言するように言っていると思いきや、

「やめるにやめられんさぇ」

捻くれるように言う。

阿音「誰も楽しみになんてしてないのに、勝手に義務感持って頑張っちゃってる感じ」

その横では銀八は胸をズキンズキン言わせるも、それに構うことなく更に阿音は続け、今度はクレープ屋と記してある看板の店を指さし、

「アレとかもそうですよ」

「うぅーん」

と、悩んだ様子の店のカウンターに立つ店主と思われる頭の禿げた男性。

銀八「何悩んでんだオッサン」

オッサン「何って決まっとるたいね。新メニューの開発さ！」

銀八「…」

オッサン「みんな楽しみにしとるけんやめるにやめられんとたい」

妙「確かに、珍メニューの開発を義務だと思ってる店ってあるわよね」

ヤス「でもそれ結局不評ですぐに廃止するパターンの方が多いみたいだけど」

「あぁ、そういえば」

「何？」

ヤスが視線を向けた先には、地味なダメガネを皮肉られた少年が何かを閃いたかのうように手の平をグーで叩いている。

「軍曹の町会報の４コマ漫画」

と、ダメガネこと、志村新八。

神楽「誰も読んでないアルけど本人、義務に感じちゃって８年の長期連載ネ」

ぬがのっ！

突然出てきた軍曹によって新八と神楽は後頭部を鷲掴みにされ、すぐ近くの民家のドアに叩きつけた。

「あぁ、また無駄に運動神経がいい！」

顔を青ざめながら銀八は言った。

「どっから出てきたあのソバカス」

ヤスの言うとおり、軍曹の野郎、いつの間に…まるで自分の話をするのを解っててツッコミを入れる為にわざわざスタンバイしてたんだろ。そう考える方が妥当だな。

銀八「確かに勝手に義務感抱いてる人っているよな」

「オマエダヨオマエ」

と、この台詞がカタコトで読みにくい濃い顔立ちのコイツは出身星不明の天人、いやここでは国籍不明の留学生、キャサリン。

「自意識過剰義務！」

＊ＡＥＲＡの一発ギャグ
＊大毅の歌
＊ヒデのご帰国ファッション
＊カツラボクサー
＊「1、2、3、信ジラレナ～イ！」
＊「ロ〇ド」3章以降
＊小林幸子の紅白衣装
＊木村太郎ダジャレ
＊広島の斎藤のハンカチ（赤）
＊ペットボトルのボトルキャップ
＊雑誌の袋とじ
＊ジャパネットのおまけ
＊モスの生産者表示（写真入り）
＊ケータイの小型軽量化
＊小泉サプライズ人事

＊「世界の警察」アメリカ
＊紙ブログ
＊単行本でのケツ出し

いきなり銀八が叫ぶため、変なコントをしてた面子も、特定の女生徒をストーキングするゴリラも、店の金を盗ろうとする全く萌えない猫耳も一斉に銀八に視線を移す。

「やらんわけにいかんやろ」

『モリアゲ係』という横断幕を体にかけた中年オヤジが、舞台の上でどう見てもつまらない素人のするようなボヨヨンギャグを部下たちに披露するも、その部下たちはテンションだだ下がりで「はよ帰らせてくれ」オーラが漂っている。

銀八「ああいう上司の演芸会とかもな。誰も楽しみになんかしてないのによ全く、見る方が義務感感じちゃうじゃねェか。本人はよかれと思っての事けど、相手に逆に義務と感じさせてしまう事も多いんだ」

どさり

引っ張り出してきたのは複数枚のＤＶＤ。

妙「何なの？ソレ」

銀八「古い知り合いに薦められたＤＶＤだよ『すごい面白いから。見なよ身なよ』って！」

後ろの電柱から黒髪に天パ、赤いパーカーを着用したサングラスか

けた男が出てきて、

「わしが貸したアレ見た？金八」

と言ったのは数学教師・坂本。

「え…あ…って、金八じゃなくて銀八だって言ってるだろ！それにお前授業はどうした？（期待されてる）」

坂本「面白そうだったからわしもついて来たアハハハ。で、見た？」

銀八「ゴメン見てな～い」

一目散に走り出す。

「会うたびに見た見たと言われる苦痛！」イタッ

周りを見ずに突っ走ってたから反対方向から来た人と正面衝突する。

「とっつぁんこんにちは」

銀八にとっつぁんと呼ばれた白髪で色眼鏡をかけたハードボイルドなオジサンは、警視庁長官なのだが、こちらでは体育教師の松平。銀八と松平の接点はあまりないものの原作でもとっつぁんという愛称はここでもそのままのようだ。

松平「おや銀八殿、こんな所で何してるのか知らねーけど、例のラーメン屋行ったか？」

銀八「そういえば…」

銀八は先日、松平のとっつぁんに美味しいラーメン屋を紹介してもらっていたのだ。
他の用で色々忙しいのか、それとも面倒臭くて行く気がしないのか、銀八はまだ行ってないのだ。

「ごめん、それがまだ行ってないんだよ！」

と、駆け足でその場を後にする。

「あの野郎、人の恩を踏みにじりおって」

松平のとっつぁんは隠し持っていた拳銃を2丁も取り出し、両手で銀八目掛けて発砲。

バーン　ドガン　バキューン

「あァァ、やめろ、」

＊

銀八「はっ！そういえば！」

ハンドベル演奏会と一番上に記されたチケットを取り出す。
担当は月詠との事。——

「——わっち、日輪や百華たちとハンドルの演奏会を開くんじゃ。
よかったら見に来い」

——回想モードに入っていた銀八は、

「他者によって俺の義務はどんどん増えてゆくじゃんかよ」

薦められた本

貸し付けられたＡＡＡのＣＤ

ＲＰＧのおつかい

「他人に義務感与えてるのは銀ちゃんの方アル」

この声は神楽、後ろから３Ｚ一同ぞろぞろ歩み寄ってきた。

銀八「え」

＊

銀魂高校宿直室――

ショートヘアの若い女が、包丁片手に料理の切り込みをしている。

「（あの銀髪侍頼りないから、周囲で支えてあげないといかん）」

と、自分の頭上にナレーションを吹き込むのは十徳の娘だが、ここでは購買部員という設定だ。しかし宿直室で何やってるのか？

「そこ、その銀髪侍って俺の事か？何してんだ？」

「あ…あたし、購買部に客が来なければヒマだからのぅ」

と、十徳の娘。顔を赤らめて言う。

「あと銀八の机も片付けてたよ。銀八だらしないから」

「俺が他人に義務感を与えていただなんてな」

「いいのよ。昔危ないところを助けられたんだもの」

銀八「じゃあ、もう少し甘えさせてもらうぜ」

ヒック

焼酎を飲み、ゴロゴロしている。

一教師が平日の昼間からこんな事してていいのだろうか。

これじゃまるで本編の万事屋と変わらんやっか。

「忘れてた。今日『北斗の軒』の新台入替だった。パチンコ行ってくるから金」

鼻をほじり、もう片方の手でパチンコ代を強請る銀八。

「おい、購買部の子、コイツ、甘やかすとどこまででもつけ上がるぞ」

と、宿直室の出入り口の所で仁王立ちし、十徳娘に警告するヤス。

＊

かぶき町も眠らぬ街という異名を持っているのだが、佐世保市街地にも夜に活発になる店も至るところにあるらしく、そんな店が立ち

並ぶ通りで1人の白髪天パがタバコくわえニヤリと笑い、こう言った。

「いつかでっけえ事やってやるから。…IT企業とかな」

ついでに言っとくけど、深夜アニメを見るのは引きこもりとニートの義務だからな

（ナレーション：九志郎）

＊

「上から声が聞こえるけど、…気のせいか」

煙を吸う物（古風のタバコのようだが正式名称不明）を片手に上を見上げる十徳娘。

第二十一訓

人は時として他人のドラマに巻き込まれる事がある。

白髪天パこと、坂田銀八は普通免許を所持しており学校まで原付で通勤してるが、誤って全蔵を轢いて免停中である。

以上のことから公共交通機関しか足がないため片手を上げ、1台のタクシーを止め、乗り込んだまでは普通なのだが…

「駅までいいか？」

と言うと運転手からじーっと見つめられた。

銀八「何だ？オッサン悪いが俺にはそんな趣味ねーぞ」

ドライバー「いえ、私ね、今日で定年なんですよ。お客さんが最後のお客さんです」

何たる偶然。銀八は見知らぬ者同士でも定年ともあればお祝いの言葉を1つや2つ言っといた方が良いだろうがと思ったが生憎いきなりそんな事言われても対応しようがない。

ドライバー「どちらまで？」

銀八「じゃあ、海まで」

その間タクシードライバーは色々な事を話してくれた。

最初に乗せたお客の事やバブルの頃、１００万ポンと出したお客の

事とか。

＊

リクエストした通り銀八は海で降ろしてもらった。

ざざーん

と、波を海岸に打ち付けてうねらせる海を背景に銀八は、

「って、何やってんだ俺！しかしなァ、あんな事言われたらとてもじゃないけど駅まで1メーターなんて言える訳ねーだろがコノヤロー！」はァ

そう、人は時として他人のドラマに巻き込まれる事がある。

＊

別の日——

銀八はとある居酒屋で飲んでいた。

「銀さん」

店主の中年男が銀八に声をかける。

「あそこに居るチンピラカップルがよ、近々結婚するんだってさ。ウチ基本的にそんなサービスはしねぇけど、婚約記念に飲みに来てるってんだし、こういうの滅多にねーから客が1人ずつアイツらに酌する事になった。だからあんたも協力してもらえねーか？」

銀八はチンピラカップルの男の方に焼酎をぶっ掛けようと考えたが、
敢えて堪えて大人しく注いでやった。

しつこいようだが、人は時として他人のドラマに巻き込まれる事がある。

最後のタクシー、乗客E：坂田銀八

婚約祝い：居酒屋の客C：坂田銀八

と表記してある映像が映し出されるモニターをチャイナ少女がソファにふんぞり返って監視するようにして見ていた。
すべて神楽ちゃんが操っていたのか？

「そう、今回は他人のドラマをぶち壊してはいけないと思う心優しい男の話アル」

＊

私は今、重要なプロジェクトを成し遂げようとしている。

と、眼鏡を装着した堅い感じの高級ホテルオーナーが先祖代々成仏に失敗した背後霊のようについて回る秘書や我が社の中で一番有能と判断した部下を引き連れて、かなり高級なホテルを自分のものだからといえばその通りだが我が物顔で闊歩している。

ホテルマン「3～7Fのお客様の了解を頂きました」

「うむ。ご苦労」

「お客様、失礼します」
と、部屋のドアをノックするビジネスマン。
そのドアには『９０４』と書かれた札が掲げられてるが、それはどうでもいい。
「はい」
そこには珍しく勉強する銀八の姿があった。
「お部屋の灯の消灯にご協力ください」
「はい？」
「このように窓明かりを利用して文字を作り成人を祝おうという趣向です」
と、完成予定図のポスターを見せながら説明するオーナー。
＊
わぁぁ
という歓声が響く中、祝成人と表記されたライトアップが披露された。
じ～ん
と、感動のあまり涙を流すオーナー。

「やりましたね室長！感動しました」パチパチ
と、ホテルの従業員たちも感激のムード。
「ありがとう！みんなのおかげだ」
協力してくれた従業員たちに礼を言うオーナーなのだが、１人肝心な人物を忘れていないよな？
って協力させたって言っても何も知らないんだから咎めてもしょうがないけど。

銀八「…」

電気を消された暗闇の中、下を向き、ポツンとしている白髪パーマ。

＊

ホテルライトアップショーと書かれた文字の羅列が映し出されてる下に、かなり細かいもののこのような表記があった。

９０４号室客：坂田銀八。

＊

商店街のとある一角——

「もう辰紀（たつのり）とは別れる！」

「いいんだな！？本当にそれでいいんだな！？」

非情にどうでもいいけど一組のカップルが喧嘩をしているのを偶然目撃した銀八。

「あ？」

銀八が見てるのに気付いた辰紀と呼ばれた男。

辰紀「コラてめー！見せ物じゃねぇぞ！」

銀八「何なんだいったい」

うおりゃぁ

と、殴りかかってくる辰紀。

銀八はそれを何なくかわし、辰紀の腹に膝小僧蹴りを一発お見舞いしてやった。

「いてーだろう、てめぇよくも！」

腹を抑えながら涙を流す辰紀。

「暴力はやめて！辰紀は酔ってるの！」

と、さっき辰紀と喧嘩していた、ロングヘアーで体格はぽっちゃり気味でたらこ唇といった容姿で、言っちゃ悪いグラマーには程遠い女。

「大丈夫？」

辰紀の元に行き、彼の安否を心配する女。

「へへッ。ざまァねーな――」

俯いた状態ながらもプライドが許さないのか、強がる辰紀。

――辰紀と敏子（としこ）の日記と書かれた羅列が映った映像の下に、細かいがまたあの名前が。

街の不良A：坂田銀八。

いや、確かに荒々しい面が多々見られるけど。

「不良っておい、確かに俺は教師にあるまじき男というレッテル貼られてるけど。どんな雑魚扱い！？」

神楽「あのカップルの物語の中では銀ちゃんの役はただの不良Aでしかないアル」

銀八「何だよ！それ！ふざけるな！！もうたくさんだ。他人の三文芝居に付き合わされるのはよ全く」

だっ、と腹を立てながらその場を後にし、福岡で新幹線に乗るため早岐駅で博多行きの特急に乗り込む。

＊

「俺は忙しいんだよ。って言いながらも買い溜めしたジャンプを読みあさるぐらいしかする事ないけどな。東京に小さいながらも庭付

きの別荘が安く手に入れられてよかったぜ」

と、銀八。

すると額に鉢巻を巻いた若い男が銀八っつぁんの方を凝視している。

「何だ。俺の顔に何か付いてるのか？」

すると男は、

「あんた今まで気付かなかったって思うけどここで尾滝（おだき）が死んだんです」

銀八「は？」

男「ここでロック歌手の尾滝豊が死んだんです」

今から２０年近く前の１９９２年、カリスマ的ロッカーが民家の庭先で変死してるのが発見された。
ファンたちは悲しみこぞってそこを訪れ、花を手向けた。
いつしかその家は聖地となり、ファンの交流の場となった。
中を覗くと、尾滝氏の沢山の写真やポスターが乱雑に張られ、わんさか積み重なった彼のレコードもあれば、かなりの値打ちモノだと思われるオーディオ機器や酒類も多く窺う事ができた。

そこに土方、沖田、近藤と思われる人物たちも居たが、敢えてスルーさせてもらう。

伝説のロッカー・ＯＤＡＫＩ物語。
民家の主人：坂田銀八。

銀八「また巻き込まれたじゃねーかァァ！せっかく久しぶりに東京に来たのに。とにかく長崎県と東京以外の地域に移り住んでやる。出来れば大阪・名古屋は避けたい。長崎県と日本３大都市以外でどこか俺に合った住処ねぇのかァ。そうすれば巻き込まれる事も少なくなるだろ」

と、東京駅から新幹線に乗り込んだ銀八だったが…

＊

７年前（おそらく２００４年頃）脱サラをして始めたペンション『シュペール』

今夜もさまざまなゲストがやってくる。

と、店のオーナーのニット帽を被って縁のない眼鏡をかけた推定６０代の老爺。

「長崎から来た坂田銀八です。銀さんって呼んでください」

パチパチパチ、と不気味な表情で握手をする他の客人たち。

ペンション冬物語、

深夜の珍客：坂田銀八

「また巻き込まれたァァ」

？「あぁ、ありますよね」

と、銀八の背後から現れたのは銀八に想いを寄せるくのいち美女、

さっちゃんこと猿飛あやめ。

さっちゃん「泊まったペンションのオーナーの自己陶酔ドラマに出演させられる事」

・自己紹介をさせられる

・個人ライブの付き合わせられる

さっちゃん「オーナーだけでなく泊まり合わせたお客さんのにも」

サヤカ自分探しの旅～冬、北陸編～

メガネ天パ：坂田銀八

「また巻き込まれた。メガネさんっておい。それにメガネだけなら許せるけどメガネ天パって何だよ。天パは余計だ」

ギャー

この悲鳴は！ミステリーの予感がして来たぞ。

私は勤続２５年のベテラン刑事。

この日、私は人生最大の難事件に遭遇する。

「犯人はこの中にいます」

と、自分の頭にナレーションを吹き込んだのに続いて台詞を発したオーバーコートを着用した白髪のオッサン。

ペンション殺人事件～消えた３つの死体～

容疑者Ｂ：坂田銀八

「また巻き込まれた」

さっちゃん「てゆーか先生、容疑者ですよ」

「もうイヤだ！」

と、ペンションを出て行った。

刑事「あっ逃げた。怪しい！」

犯人：坂田銀八

さっちゃん「待って先生、役のランクが少しアップしました」

銀八「知るかコノヤロー」

＊

「ボクたちが結ばれるにはこうするしかないんだ」

「あなたと一緒なら怖くないわ」

と、心中を図ろうとする一組のカップル。

次の瞬間、抱き合いながら崖から身を投じた。

たまたま下を通りかかった銀八。

東尋坊心中
下の人：坂田銀八

神楽「まァこれはリアルに巻き添えヨロシ。人は時として他人のドラマに巻き込まれることがあるアル」

＊

妙の行動を電柱の陰から監視するようにして見る近藤。
神楽はそんな近藤を偶然目撃して、

「あんな風に本人の知らぬ所で大役に」

オレと彼女の物語
彼女：志村妙

ストーカーの発想だろ、と書いたボードを掲げたエリザベス。

その後近藤は、妙からいつも通りボコボコに返り討ちにされたのは言うまでもない。

第二十一訓（後書き）

「この話ではオレは生徒Ａでしかないんですか？」

と、桂。

「いや、それは心配すんな。もっと重要な役だ」

と、タバコをくわえ、だるそうにして教卓に両手を着く銀八。

「本当ですか！」

狂乱の貴公子、何喜んでんだ。『石ころ失格。主演：坂田銀八』のタイトル表記の後ろに続く細かい文字をよく見ろ。

厄介な長髪野郎：桂小太郎

第二十二訓

六波羅短期大学は今日は年に一度の入学試験である。
ここに入るために汗水垂らして勉強した受験生たちが次々と校門をくぐって行く。

「受験生の皆さん頑張ってください」

と、制服の上に女物のパーカーを羽織り、首にマフラーを巻き、毛糸状の手袋を装着した妙がエールを送る。

「受験って言ったって色々あるぜ」

と、現れた銀八。

妙「先生」

銀八「世の中そんなに頑張らなくてもいい――倍率1倍以下の受験もあるんだよ」

何言ってんだコイツ、と言うような目で銀八を見る妙は、冷や汗を流しながら、

「倍率1倍以下の受験？定員割れって事ですか？」

銀八「高校や大学受験に限らず、世に溢れる1倍以下受験――」

募集人員5名のところ、1名しか応募のなかった入試試験とか！

グランプリ準グランプリを決めるのに1人しか応募のなかった地方のミスコンオーディションとか！
県内に競技人口が1人しかいない代表選考会とか！
「――そんなちょっと切ない1倍以下受験」
元気なさそうに下を向いて言う銀八は話を続け、
「私立大の4割、定員の5割が定員割れに陥り、企業の多くが人手不足に陥る昨今――1倍以下ブーム到来！」
「ブームとか、言うな！！」
と妙は銀八の顔にパンチを入れてちょっときつめのツッコみっぷりを披露した。
鼻血を流しながらも銀八はそれを手で押さえながら、
「受験に限らず、1倍以下の競争ってのは世の中に多いんだ。あれもそう」
と、指差した先にある閑古鳥状態の本屋。
その脇の窓ガラスに、何やら貼紙が…
近づいて読んでみると、
『淀み』2巻発売記念、天知伸紘先生サイン会。５０名限定。※11時より整理券を配布します
「只今より整理券を配付しまーす」
と、店員がメガホンで道行く人々に呼びかけるも振り向く者は1人

も居らず。
ってそこの店員はヤス。
「整理券配付していまーす。あのぉ…もらってやってもらえませんか？」
ぴー
と、笛で要りませんと伝える百音。
銀八「せつね。あの店員ウチの生徒じゃね！？知り合いだと尚更せつね」
妙「…ヤスくん…あまりにもせつなくて見てられないわ…」
ヤスだと2人共解ってるのだがあまりにも切な過ぎて何やってんだお前、からの鉄槌なんて下せるはずもなく、ただその場で凍りついて可哀想な目で見る以外に手段は持ち合わせてる訳がない。
銀八「1倍以下競争のサイン会では作家を傷つけまいと、こういう配慮がされてる――」
担当編集などの関係者や、開催する店のバイトさんがファンのふりをして列を作り、欲しくもないサインを無理してもらう。
「――絶望した！1倍以下の競争に絶望した！」
？「みんな1倍以下の受験生なんかじゃないネ！争い事の嫌いな平和主義者さんアルよ」

と、台詞の主は神楽ちゃん。

「競争すれば敗者が出るアル。敗者を作らない生き方、それが１倍以下競争アル」

銀八「敗者を作らない生き方…確かにそれは尊い生き方かもな」

妙「先生また神楽ちゃんに言いくるめられてないでしょうね？」

銀八「俺は間違ってた。１倍以下受験に絶望するなんて――教育者ならむしろ１倍以下受験を推奨すべきだった！」

＊

銀魂高校図書室――

かぶき町ホストクラブ『高天原』オーナー券Ｎｏ１ホスト本城狂死郎こと、黒板八郎。

ここでは、銀魂高校の中でもエリートな面子ばかりを集めた３－Ａという設定である。

そんな狂死郎の読書する姿はクールなオーラを醸し出していて、男ですら兄貴、と呼んでしまいそうな感じだった。

「狂死郎くん、カッコいいよね」

「でも競争率高いよォ」

と、女子生徒たち。

あんな容姿だから当然女にモテモテだ。

「おいお前ら、競争率1倍以下の恋をしねェか？」

突如台詞を発した銀八は手を自分の斜め後ろにいる男子生徒3人に手を翳し、

「紹介する」

と言って現れたのは、いずれもあまり女にモテそうにない男子たち。

本編において新八率いる寺門通親衛隊に属していた軍曹、こちらでは3Zの隣のクラスの設定。

その後ろに続いて、デブのくせにナルシストな徳久（のりひさ）、典型的なただのデブの徹男（てつお）。

銀八「こん中から好きな男を選べ」

女の子「そう言われましても」

すると銀八から振り向くと、新八がいた。

「悪いですけど僕、競争率高いですよ。幾人ものハニーたちから告白される日々」

新八は夢の世界に羽ばたいて行くようにしてアニメやゲームといった2次元の美少女から好きだ、と言われる所を思い出して語った。

銀八「そうかいそうかい。あのなァ、本編で恋愛ゲームに精神を乗っ取られたお前を現実世界に戻すべく俺がしたくもない恋愛ゲームやらされて、どれだけ苦労したと思ってんだよ」

妙「こんな弟いやだわ。先生、どうにかしてください」

新八「何ですか姉上、その言い方！それじゃ僕が妄想世界の住人みたいじゃないですかァァ！」

妙「正にその通りじゃない」

銀八「…まァ、生きてれば最低でも2人くらいは好きになってくれると思うぞ。1倍以下って事はないと思う。うん」

姉弟喧嘩に口を挟んで散々な目に遭うのではないかと冷や汗をかきながら言った。

「俺、何か部活に入ろうかなって思ってるんだけど」

と、近くにいた男子生徒が友人と思われるもう1人に話している光景を目撃した銀八は、

「競争率1倍以下の部活をしねェか？お前ーー」

＊

「ーー6人しかいない野球部だ」

目の前に広がるのは、いかにも人気がなければ面白くもなく、本当に活動してるのか、と疑いたくなるような小規模な野球チームだった。

「さァこいつのために入部テストを実施してやれ」

部員A「1倍以下の受験って…」
部員B「そう言われましても…」

「もー全然つながらない」
と、阿音がケータイ片手に、困ったような様子。
阿音「相当倍率高いよォ、このチケット！」
「ダメだ！争い事は」
と、銀八は阿音の手を引き、
「1倍以下のコンサートに行こうじゃねーかァァ！！」
タトゥコンサートという訳の解らない無名アーティストのコンサートに無理矢理連れて行った。
阿音ちゃん困ってるぞ。ほんとにそんなんでいいのか？（ナレーション独断）

＊

「早く買わねば、限定版が瞬殺されてしまう」
と、新八の旧友で、一時期かぶき町で最も性質が悪い暴走族・ブルドッグ（漢字表記忘れた）に加盟していたが、喧嘩別れしていた新八との和解で脱退し更正、その後は寺門通親衛隊に加入したタカチンこと、高屋八兵衛。

そんなタカチン、お通ちゃんの猫耳コスチュームをしたパッケージのグッズ類を手当たり次第手に取っている。

「競争率1倍以下の限定版を買いましょう」

と、ブレイクには至らなかった無名アイドルの限定版グッズを手に持った銀八がタカチンに、運がなかったことで、と言わんばかりにそれを差し出す。

勿論そんなの貰っても虚しいだけだ。

＊

「俺もヒーローになりたいな」

主に吉原編で出てくる孤児の少年、晴太。

この年頃ならばヒーローものに憧れて当然だ。

「3人しかいないゴレ〇ジャーを連れて来た」

銀八はどこかしこから某スーパー戦隊モノのコスプレなのか、それともそれをモチーフとするパロディなのか知らなくてもいいのだが、赤、青、黄色のレンジャースーツを纏った3人が晴太の部屋を覗いている。

「何かちょっと違うそいつら！」

ゴレ〇ジャーもどき共は偽者だとすぐに見抜き、驚きとショックの2つの衝動に駆られる晴太。

＊

「競争率1倍以下入札もあるぞ」

と、次にやって来たのはスーツを着た中年のオッサンたちが入札箱と書かれた金属製の箱に1枚ずつ紙切れを投入する現場へやって来た銀八と妙。

妙「でも、7社による競争入札じゃないですか」

銀八「あれのどこが競争入札だ。最初から落札業者が決まっているから1倍以下入札だバカヤロー」

妙「ああ…」

銀八「ああ。ステキな競争率1倍以下ライフ！！」

・合同結婚式
・ＡＫＢ４８（定員４８人のところまだ３５人）
・ほぼ全員受かった郵政選挙時の自民比例代表
・クラブＷ杯チケット「オークランド×アルアハリ戦」
・２００５年Ｆ１アメリカＧＰ　全出走車入賞
・ジャイアンツの地上はテレビ放映権
・保健所でもらえるネコとか犬
・ＪＡ〇ＲＡＣの利権
・そろそろＰＳ３（しかし最近はほとんどのＰＳ２対応だったソフトウェアはＰＳ３に移行したためそうでもなくなった）

♪1倍以下の大学に入り、『下流大学』（どなたでも入れます。by安心大学）
♪1倍以下の会社に入社し、『ガタピシ社』何の仕事をしてるのか

すら解らないかなり小規模な会社
♪1倍以下の嫁をもらう。不細工で顎がしゃくれた男と全く縁がなさそうな女
♪1倍以下のマンションに入居し、『極安。保証人不要』と書かれた看板が佇むようにして置かれており、『モデルルーム公開中』という垂れ幕が下りて、その垂れ幕がボロボロどころかマンションという建物自体が今にも壊れそうな感じがしている。
♪1倍以下の墓に入る。誰も買いそうにない地味な墓。それでも『墓地区画分譲中！』と書いてある看板が掲げられている。
♪人生全て1倍以下。人生全て1倍以下♪
妙「なぜ歌！？」
彼女特有の傷害事件に発展しそうな激烈なツッコミも入れる気すら失せるほど呆然としている。
「1倍以下ライフ」
銀八がギター弾いて歌ってる。
そこに長谷川が目をキラキラさせながら喰いついて来た。
「困ったのう。まだ1人も立候補者がいないんじゃよ」
と、カラクリ技師の平賀源外。こちらでは理科教師という設定。
生徒会長選挙！
12月14日投票日
「俺が生徒会長になった暁には、校則を改正し、自由な髪型ができ

る学校に――」

彼の公約は、

・「夢」という言葉を使わない
・サングラスの自由
・己の信念を貫き通せ
・背筋伸ばせ

…いずれもちょっと小さすぎる気もするが。

「1杯以下選挙！」

何人かが長谷川の名前の書いた用紙を投票箱の中に放り込むが悲惨な結果だった。

信任：171
不信任：367
無効：15

これを目の当たりにした長谷川は涙目になっている。
その後ろから銀八が可哀想なヤツを見るような目で見ている。
更にその背後にいた神楽、妙、月詠も同じく無表情な目で可哀想な長谷川をジト目で眺める。

銀八「1倍以下競争ですら落ちる始末！――確かに1倍以下でも落ちる事ある。100％落ちない競争なんてこの世にないって事だ」

・空席ありのレストランで入店を断られた。
・ツアーに申し込んだが、参加者が2名以下で催行されなかった。

・就職率１１９．４％の専門学校のはずなのに、何故か就職できなかった。
・空いてる深夜枠ですら、アニメにしてもらえなかった。

妙「まぁ、基準を満たしていなければ…」

銀「やっぱり絶望した！1倍以下ですら敗者を作る社会に絶望した！」

月詠「1倍以下受験が発生した時点で、両方負けだと思うけどな」

ぼろ～ん

またギターを奏で始める銀八っつぁん。

♪1倍以下の大学に落ちて～♪
♪1倍以下の会社に不採用～♪
♪1倍以下の女にフラれー♪
♪1倍以下の住まいにさえ追われる～♪

一倍以下の墓はいずれ無縁仏～…

妙「だから何で歌なの！？」

＊

「公園ハ一倍ドコロカ結構倍率高イゾ」

ホームレスだらけの川沿いの公園に立ち寄ったキャサリン。

第二十二訓（後書き）

不況だからと言えば正にその通りかもしれません。
実際、社会の絶望的な一面を反映した事になってる可能性も否定できないな、こりゃ。

新八「先生ってなんだかんだで倍率高いですよね」

ヤス「結構モテモテみたですよ銀さん」

銀八「そうか」

＊

神楽「銀ちゃん…」

机に伏した状態だ。

さっちゃん「先生…」

コイツは天井裏から覗いている。

月詠「銀時…じゃなかった銀八」

保健室の机のイスに踏ん反り返り、無意識に想い人のことを考える。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6933r/

銀魂～銀さんと一緒！天人少年の肥前日記～

2011年12月18日09時48分発行